

報 告 書

城陽未来まちづくり会議 (55人委員会)

平成26年(2014年)9月20日(土)開催



城陽イメージキャラクター
「じょうりんちゃん」

平成26年(2014年)12月

城陽市 市長公室 市民活動支援課

報告書 本編

目 次

実施概要

1. 城陽未来まちづくり会議とは.....	1
1-1 開催の目的と位置付け.....	1
1-2 参加者の決定.....	1
1-3 城陽未来まちづくり会議の進め方.....	2
1-4 会議における意見のまとめ.....	2

実施報告

2. 城陽未来まちづくり会議における意見の分析.....	3
2-1 SWOT分析による公共交通戦略の検討.....	3
2-2 意見の分析結果のまとめ.....	6

ワークショップの報告

3. 城陽未来まちづくり会議の様子.....	10
3-1 城陽未来まちづくり会議のプログラム.....	10
3-2 班ごとの意見.....	11
3-3 各班から出た意見の集約.....	27
3-4 参加者アンケート（ひとことカード）の内容.....	29



1. 城陽未来まちづくり会議とは

1-1 開催の目的と位置付け

城陽未来まちづくり会議は、これまで行政に声を届ける機会が少なかった市民の方に、市政への参加を促し、その意見を市政に取り入れること、またそのことを通じて、市民意識の高揚を図り、市民活動の担い手の掘り起こしに繋げることを目的に開催しました。したがって、会議での意見については、諮問に対する答申や提言といったものでなく、「幅広い市民の声」として位置づけられるものとなります。

1-2 参加者の決定

○参加希望者の選定 住民基本台帳から市民1,800人を無作為に抽出し、城陽未来まちづくり会議への参加依頼を送付しました。あわせて会議についてのアンケート調査を実施しました。

○参加募集の人数 55人
城陽市が京都と奈良のほぼ中間に位置し、古くから「五里ごりの里きと」と呼ばれることにちなんで、55人としました。

○参加希望者の決定 参加依頼の結果、96名から参加希望をいただき、抽選前に5名が辞退されたことから、91人による抽選を行い、会議に参加していただく55人を決定しました。

○抽選の方法 年齢や地域性を考慮し、Microsoft Excel のランダム関数を用いて抽選を行いました。

○抽選の結果 抽選の結果、地域別・年齢別の参加者は下表のとおりです。

	久津川地区		寺田地区		富野地区		青谷地区		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
10-20歳代	2				1				3
30歳代	1	1	2	1					5
40歳代	3		3	4	1	1			12
50歳代	1	1	3	2	2			1	10
60歳代	2	1	1	2	2	1	3		12
70歳代以上	2	2	3	2	2	2			13
男女別計	11	5	12	11	8	4	3	1	55
総計	16		23		12		4		

(単位：人)

1-3 城陽未来まちづくり会議の進め方

会議の進め方として、参加者の55人を8つのグループに分けて、1班あたり6～7人で、今回のテーマである「高齢社会における公共交通のあり方」について意見を出しあっていただきました。

グループごとに配置した専門のファシリテーターにより、会議の進行と意見のまとめを行いました。最後に各班での意見を発表し、会場全体での質疑応答により情報の共有を行いました。



▲奥田市長のあいさつ

1-4 会議における意見のまとめ

城陽未来まちづくり会議では、参加した市民のみなさんにより活発な意見交換が行われ、公共交通に関する幅広い意見など、たくさんの声をいただくことができました。

今回の会議でいただいたご意見に基づき、SWOT分析（P.3参照）の考え方による現状分析・公共交通戦略の検討を行うとともに、市として取り組むべきものについては、既に実施している施策との整合性を図り、施策への反映について検討することとします。



2. 城陽未来まちづくり会議における意見の分析

2-1 SWOT分析による公共交通戦略の検討

城陽未来まちづくり会議で出された意見（P.27～28 参照）を基に、^{スウオット}SWOT分析による公共交通戦略を検討しました。

(1) SWOT分析とは

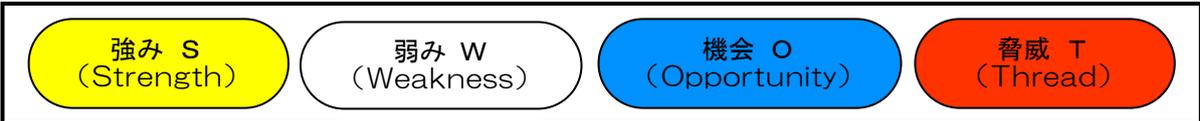
SWOT分析とは、主にマーケティングに使う経営分析法であり、現状分析・戦略構築のため活用される手法です。SWOT分析では、S（Strength）：強み、W（Weakness）：弱み、O（Opportunity）：機会、T（Thread）：脅威、これら4つの視点から、外部環境と内部環境に分けて現状分析を行い、その後、「機会×強み、機会×弱み、脅威×強み、脅威×弱み」のクロス分析を行うことで、高齢社会における公共交通についての戦略を導き出す手法です。

■ SWOT分析の手順



◆ SWOT分析の考え方

《現状分析》



《クロス分析》

	強み S	弱み W
機会 O	(クロス分析) 強みS × 機会O ↓ (戦略方針) 強みを活かして機会を取り込む 「強化戦略」は？	(クロス分析) 弱みW × 機会O ↓ (戦略方針) 弱みを補強して機会を捉える 「補完戦略」は？
脅威 T	(クロス分析) 強みS × 脅威T ↓ (戦略方針) 強みを活かして脅威を機会に変える 「逆転戦略」は？	(クロス分析) 弱みW × 脅威T ↓ (戦略方針) 弱みを解消して脅威の影響から逃れる 「回避戦略」は？

(2) SWOT 現状分析

SWOT 現状分析では、城陽市を取り巻くあらゆる環境要因（内部環境・外部環境）について、城陽未来まちづくり会議で出された意見を基に項目列挙し、その環境要因による影響について、市の個性や特性といえる要因を【強み（S）】、市の抱える課題的要因を【弱み（W）】、市にとってプラスに働く社会情勢の変化を【機会（O）】、マイナスと考えられる社会情勢の変化を【脅威（T）】として捉え、それぞれに分類・整理しながら分析を行いました。

	内部環境（市の特性・課題）	外部環境（社会経済情勢の変化）
プラス要素	【強み（S）】 <ul style="list-style-type: none"> 市街地の大半が平坦地である 鉄道駅が市内に6駅ある 史跡や文化財が鉄道沿線に点在している 観光梅林やいも掘り農園がある 季節の花（桜、花しょうぶ）が楽しめる 西部に茶畑の風景が広がる 文化パーク城陽が近鉄寺田駅に隣接している 東部に大規模なスポーツ・レクリエーション施設がある 市民協働による駅周辺整備等の取り組みが進んでいる 多様な市民活動が活発に行われている 高齢者、医療施設への送迎バスが充実している 	【機会（O）】 <ul style="list-style-type: none"> 新名神高速道路の建設が進んでいる 新市街地整備事業が進んでいる 東部丘陵地の先行整備計画が具体化している JR奈良線の複線化事業が進んでいる 都市計画道路「塚本深谷線」の整備が進んでいる 若者の車離れが進んでいる 公共交通への関心が高まっている NPOや市民負担による公共交通整備の事例が全国的に増加している クリーンエネルギーへの関心が全国的に高まっている
	【弱み（W）】 <ul style="list-style-type: none"> 東西の幹線道路が少ない 幅員の狭い道路が多い 城陽さんさんバスの利用者が少ない バス路線が市内全域を網羅していない 近鉄3駅及びJR山城青谷駅の駅周辺整備が進んでいない 市東部の住宅地には坂道が多い 	【脅威（T）】 <ul style="list-style-type: none"> 高齢社会が進展している 依然として自家用車への依存度が高い 公共交通に対する市民ニーズが多様化している 民間バス事業者の路線縮小が全国的に進んでいる コミュニティバスの運行に多額の財政負担が必要となっている コミュニティバスに対する要望は多いが利用意識は低い
マイナス要素		

(3) クロスSWOT分析による戦略の立案

SWOT現状分析により整理した本市の特性や課題、社会情勢の変化を基に、それぞれに分類した項目を掛け合わせてその問いに答えていくことで次の戦略を構築していく「クロスSWOT分析」を行い、城陽市における将来の公共交通戦略を導き出しました。

	強み S	弱み W
機会 O	強みを活かして機会を取り込む 「強化戦略」(O×S) <ul style="list-style-type: none"> ・ 地理的特色を活かし、駅を起点としたレンタルサイクルの検討（電動アシスト車を含む） ・ 文化パーク城陽のイベントやスポーツ施設、歴史遺産、観光資源と連携した企画乗車券の発行 ・ 観光や公共施設情報を含んだ公共交通マップの作成 ・ 新市街地整備やJR奈良線複線化事業をインパクトとした、市民力の活用による公共交通ターミナルとしての駅周辺整備の推進 ・ 公共交通への関心の高まりを背景とした、既存のバス路線、タクシー等の新たな観点からの活用方法の検討 	弱みを補強して機会を捉える 「補完戦略」(O×W) <ul style="list-style-type: none"> ・ 新名神建設、新市街地整備に併せた道路整備 ・ JR奈良線の複線化に併せた山城青谷駅周辺整備 ・ 新市街地に進出する企業の最寄り駅としての寺田駅周辺整備 ・ 城陽さんさんバス利用促進に向けたPRの強化（無料デーやポイント制度等） ・ 市民参加による城陽さんさんバス運行ダイヤの見直し ・ バス停のベンチや屋根の設置による快適性の向上
脅威 T	強みを活かして脅威を機会に変える 「逆転戦略」(T×S) <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道各駅や公共施設、病院への送迎を主とした公共交通の検討 ・ 各駅へのタクシー専用電話の設置 ・ 各駅前のタクシースペースの整備 ・ 高齢者・医療施設への送迎バスの有効活用の検討 ・ 公共交通に関する市民ニーズの調査 ・ 市民参加による新たな公共交通システムの検討（デマンドバス・タクシー、地域負担、NPOの参画 etc.） 	弱みを解消して脅威の影響から逃れる 「回避戦略」(T×W) <ul style="list-style-type: none"> ・ 運転免許証自主返納者に対するタクシー利用補助制度の検討 ・ 環境保全の観点からの公共交通利用促進のPR ・ バス・バス停へのネーミングライツ検討 ・ 車内広告、時刻表への広告掲載の検討 ・ 行政と市民の一部負担によるバス運行の検討

2-2 意見の分析結果のまとめ

城陽未来まちづくり会議で出された意見に基づき、「SWOT現状分析」「クロスSWOT分析」のフレームワークにより整理・分析して導きだされた公共交通戦略について、分析結果のまとめを報告します。

◆公共交通に関わるインフラ整備

- ・新市街地整備やJR奈良線複線化事業をインパクトとした、市民力の活用による公共交通ターミナルとしての駅周辺整備の推進
- ・新名神建設、新市街地整備に併せた道路整備
- ・JR奈良線の複線化に併せた山城青谷駅周辺整備
- ・新市街地に進出する企業の最寄り駅としての寺田駅周辺整備

《分析内容》

本市の道路事情は、東西の幹線道路が少なく、市街地内の道路は幅員が狭いことから、公共交通としてのバスの運行に適した環境とは言えない。さらに、接続ターミナルとなる鉄道の駅については、近鉄3駅、JR山城青谷駅において駅舎や駅前広場等の整備が不十分であるという課題もある。

しかしながら、現在、本市においては、新名神高速道路の全線開通に向けての動きや、同ジャンクション・インターチェンジに隣接する久世荒内・寺田塚本地区土地区画整理事業（新市街地整備）の本格化、JR奈良線の複線化など、大きく都市基盤の整備が進む状況にあることから、今後のまちづくりにおいては、これらの大規模事業のインパクトを最大限に活用した、公共交通のインフラ整備が求められる。

具体的には、新名神高速道路の側道としての国道24号や（仮称）北幹線の整備が期待されるとともに、今後、久世荒内・寺田塚本地区における新市街地整備に伴い、進出企業への出張や通勤者の増加が予想されることから、それらに対応するアクセスの道路としての都市計画道路「塚本深谷線」の整備や最寄り駅としての近鉄寺田駅の周辺整備、JR奈良線高速化複線化事業に併せた、バスの通行が可能なバイパス道路を含めたJR山城青谷駅の周辺整備などが必要である。

◆城陽さんさんバス等の利用促進と利便性の向上

- ・城陽さんさんバス利用促進に向けたPRの強化(無料デーやポイント制度等)
- ・市民参加による城陽さんさんバス運行ダイヤの見直し
- ・観光や公共施設情報を含んだ公共交通マップの作成
- ・文化パーク城陽のイベントやスポーツ施設、歴史遺産、観光資源と連携した企画乗車券の発行
- ・バス停のベンチや屋根の設置による快適性の向上

《分析内容》

城陽さんさんバスは、民間事業者に市が運行補助金を支出する方式により、平成17年11月に運行を開始し、路線の変更等を行いながら現在は「鴻ノ巣山運動公園近鉄寺田線」と「プラムイン城陽長池線」の2路線が運行している。平成25年度の年間の利用者数は約19万2千人で市からの補助金は41,466千円(24年度決算)となっている。

城陽さんさんバスについては、利用者数に応じて市の補助金額が変動することから、市において、運行経路やダイヤの見直し、バス・エコファミリーの実施など、利用促進に向けた取り組みが進められており、近年、利用者数は増加傾向にあるが、更なる利用促進に向けた取り組みが求められている。

そのためには、文化パーク城陽のイベントや歴史遺産、観光資源と連携した企画乗車券の発行、公共交通マップの作成、バス停の快適性の向上などについて、市民の意見やニーズを踏まえた効果的な利用促進策の検討が必要である。

◆民間バス等事業者への支援

- ・バス・バス停へのネーミングライツの検討
- ・車内広告、時刻表への広告掲載の検討
- ・行政と市民の一部負担によるバス運行の検討
- ・各駅へのタクシー専用電話の設置
- ・各駅前のタクシースペースの整備

《分析内容》

市内の公共交通、とりわけ路線バスやタクシーの拡充に向けては、事業者としての採算面の確保と市の負担増の問題がある。そのためには、利用促進はもとより、バスやバス停へのネーミングライツや広告掲載による収入確保の検討やタクシーの利便性の向上に向けた取り組みが求められる。

これらについては、事業者が主体となって取り組むべき課題であるが、関係機関への働きかけや情報提供など、市としての協力・連携による対応が望まれる。

また、新たなバス路線の設置などの要望が多く寄せられているが、一方では、市民がバスを利用しない、主体的に利用しようとする意識が低い、といった問題も抱えている。

そのようなことから、新たな手法として近隣自治体で実施されている、バス運行経費の赤字分を自治体と地域住民が負担する官民負担方式についても検討することが必要である。

◆環境保全の観点からの公共交通利用促進

- ・地理的特色を活かし、駅を起点としたレンタサイクルの検討(電動アシスト車を含む)
- ・環境保全の観点からの公共交通利用促進のPR
- ・運転免許証自主返納者に対するタクシー利用補助制度の検討

《分析内容》

身近な移動手段としての自家用車への依存度は依然として高いものがあるが、駅を起点としたレンタサイクルの設置や、クリーンエネルギーへの関心の高まりを背景とした、環境保全の観点からの公共交通の利用促進、高齢社会の進展に伴う運転免許証自主返納者に対するタクシー利用補助制度など、市民が公共交通に移行しやすい仕組みづくりに取り組むことが必要である。

◆市民参加による新たな公共交通システムの検討

- ・鉄道各駅や公共施設、病院への送迎を主とした公共交通の検討
- ・公共交通に関する市民ニーズの調査
- ・高齢者・医療施設への送迎バスの有効活用の検討
- ・公共交通への関心の高まりを背景とした、既存のバス路線、タクシー等の新たな観点からの活用方法の検討
- ・市民参加による新たな公共交通システムの検討
(デマンドバス・タクシー、地域負担、NPOの参画 etc.)

《分析内容》

鉄道やバスなど公共交通の利便性については、道路事情や地理的な面から市内の各地域で差があり、新たなバス路線の設置などの要望がされている現状がある。

しかしながら、本市における将来の公共交通のあり方については、特定の地域の課題ではなく、市全体の問題として捉える必要があり、デマンドバス・タクシー、高齢者・医療施設への送迎バスの活用など、民間企業やNPO等との連携も含めた多方面からの検討を行うことが重要である。

そのためには、幅広い市民が参加し、将来の公共交通のあり方について学識経験者を交えて自由に議論し提案できる「場」づくりが求められる。

さらに、新公共交通システムの具体化に向けて、システムと財政負担、市民利用の観点から、市民代表や学識経験者等の参画による、より専門的な検討の場も必要である。



3. 城陽未来まちづくり会議の様子

城陽未来まちづくり会議の当日の様子について紹介します。

3-1 城陽未来まちづくり会議のプログラム

日 時：平成26年（2014年）9月20日（土）10:00～16:00

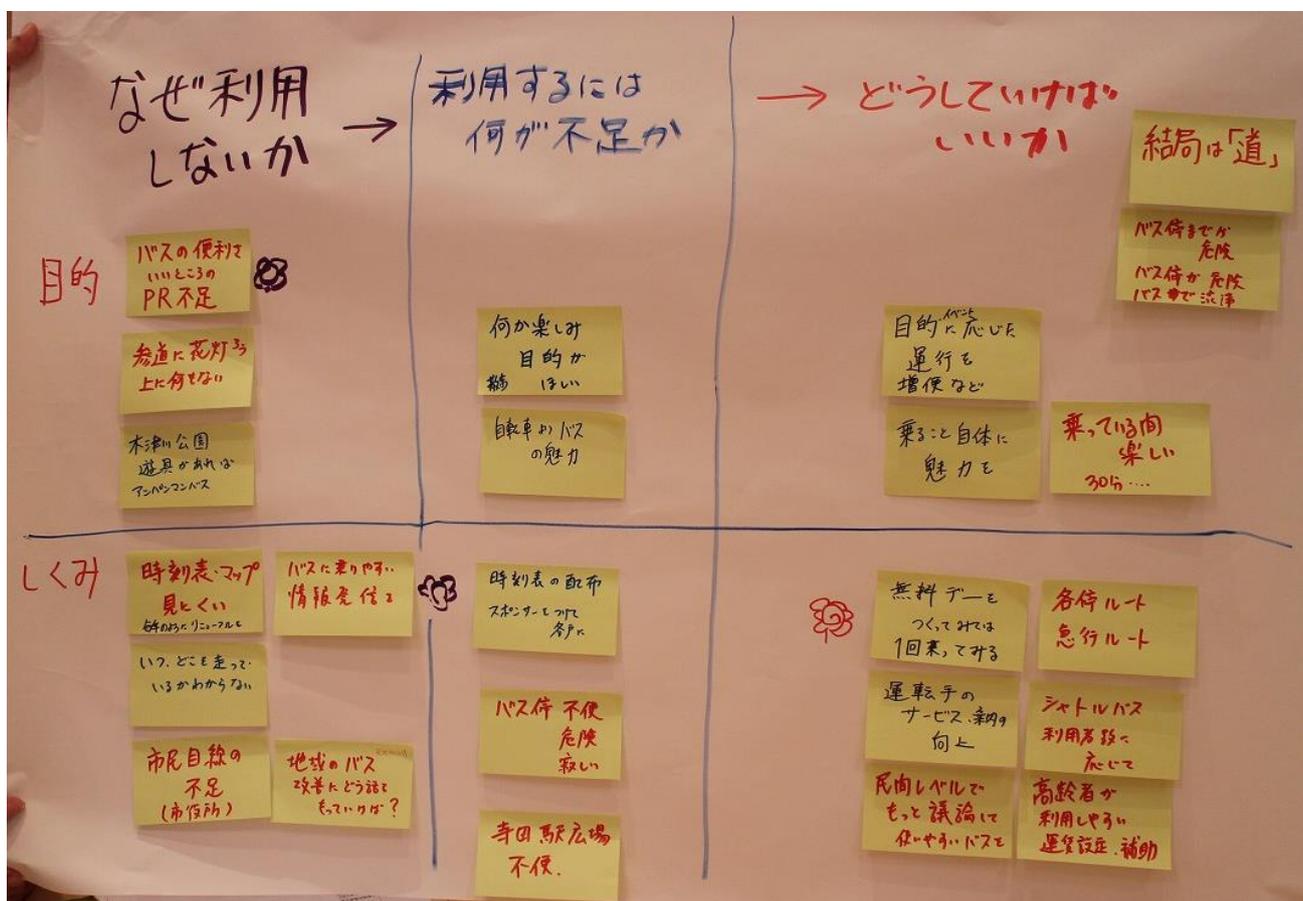
場 所：文化パーク城陽 4階大会議室

テーマ：「高齢社会における公共交通のあり方」

9:30- 10:00	受付
10:00- 10:10	市長挨拶等
10:10- 10:30	本日のスケジュールと資料説明（20分間）
10:30- 11:00	<p>《意見交換の前に……》（30分間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で自己紹介 ・意見交換の前に簡単なミニゲーム
11:00- 12:00	<p>《グループワーク：公共交通の便利なところ・不便なところ》（60分間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道、バス、タクシーの便利なところ、不便なところ、便利な使い方 ・誰かから聞いた便利なところ、不便なところ、便利な使い方
12:00- 13:00	— 昼 食 —
13:00- 14:00	<p>《グループワーク：便利で利用しやすい公共交通に向けて》（60分間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前中に話し合った内容、自分や親の将来、子どもの通学、怪我や事故等で車を使えない時にどうしたらいいの？ ・もっと便利に使うためにはどうしたらいいの？ ・そのために自分たちにできる事はなんだろう…。
14:00- 15:20	<p>《各班の発表と発表内容の最終チェック》（80分間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとにまとめた意見の発表、会場からの意見 ・会場から自分の班に向けた意見を含めてまとめ
15:20- 15:40	— 休 憩 —
15:40- 15:50	<p>《最終発表》（10分間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班からいただいた8つの意見を1つの表に集約し発表 ・全員で発表した内容の確認
15:50- 16:00	お知らせ



発表の様子



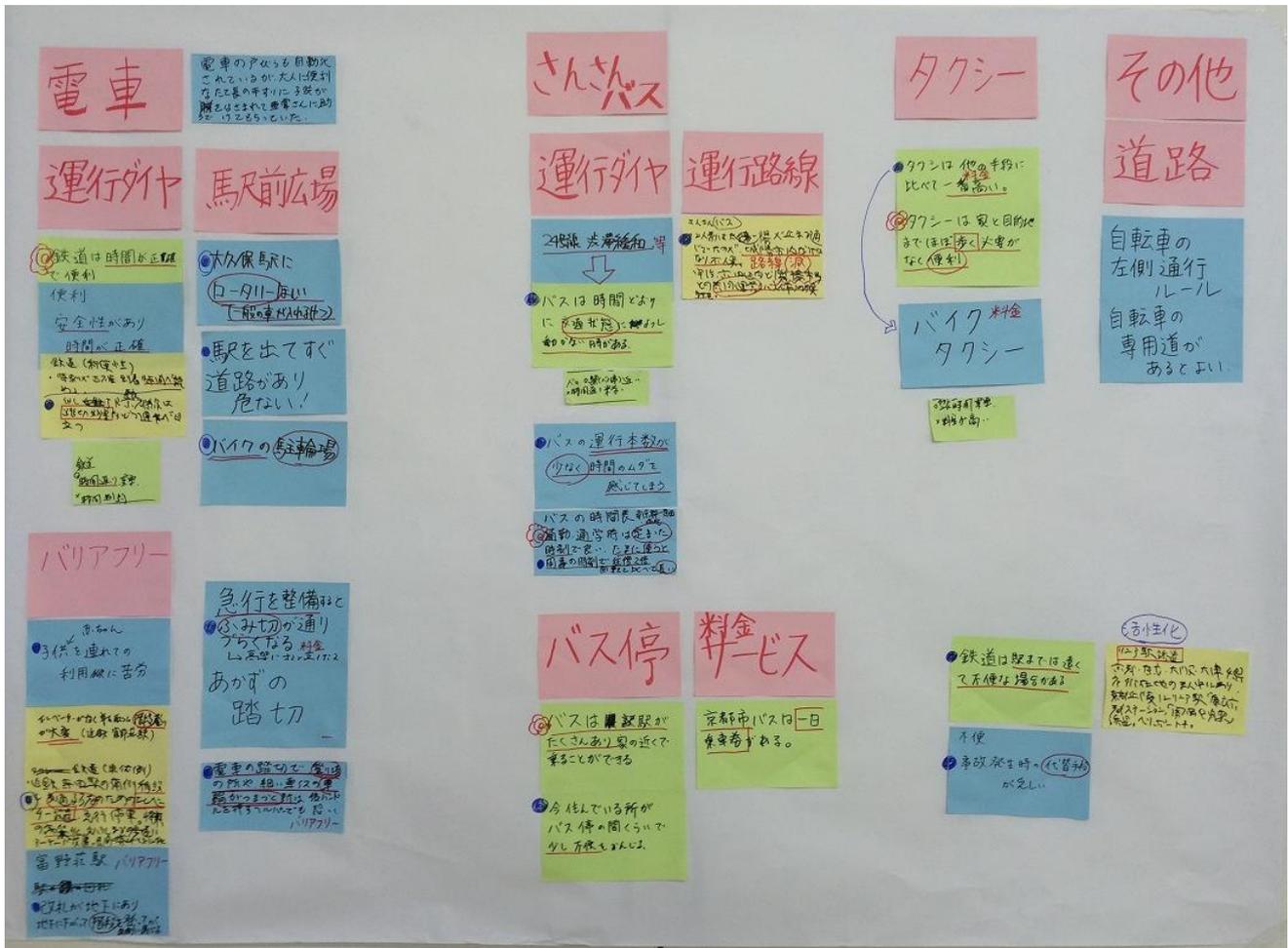
▲ 1班が考えた公共交通を便利に使うための意見

《2班の意見交換の様子》

2班のみなさん、ありがとうございました。まずは利用する、そして利用するための仕組みを考えてくださいました。



意見交換の様子



▲ 2班が考えた公共交通の良い所と不便な所



発表の様子



▲ 2班が考えた公共交通を便利に使うための意見

《3班の意見交換の様子》

3班のみなさん、ありがとうございました。公共交通の活性化は市の活性化である、という視点で考えてくださいました。



意見交換の様子



▲ 3班が考えた公共交通の良い所と不便な所



発表の様子



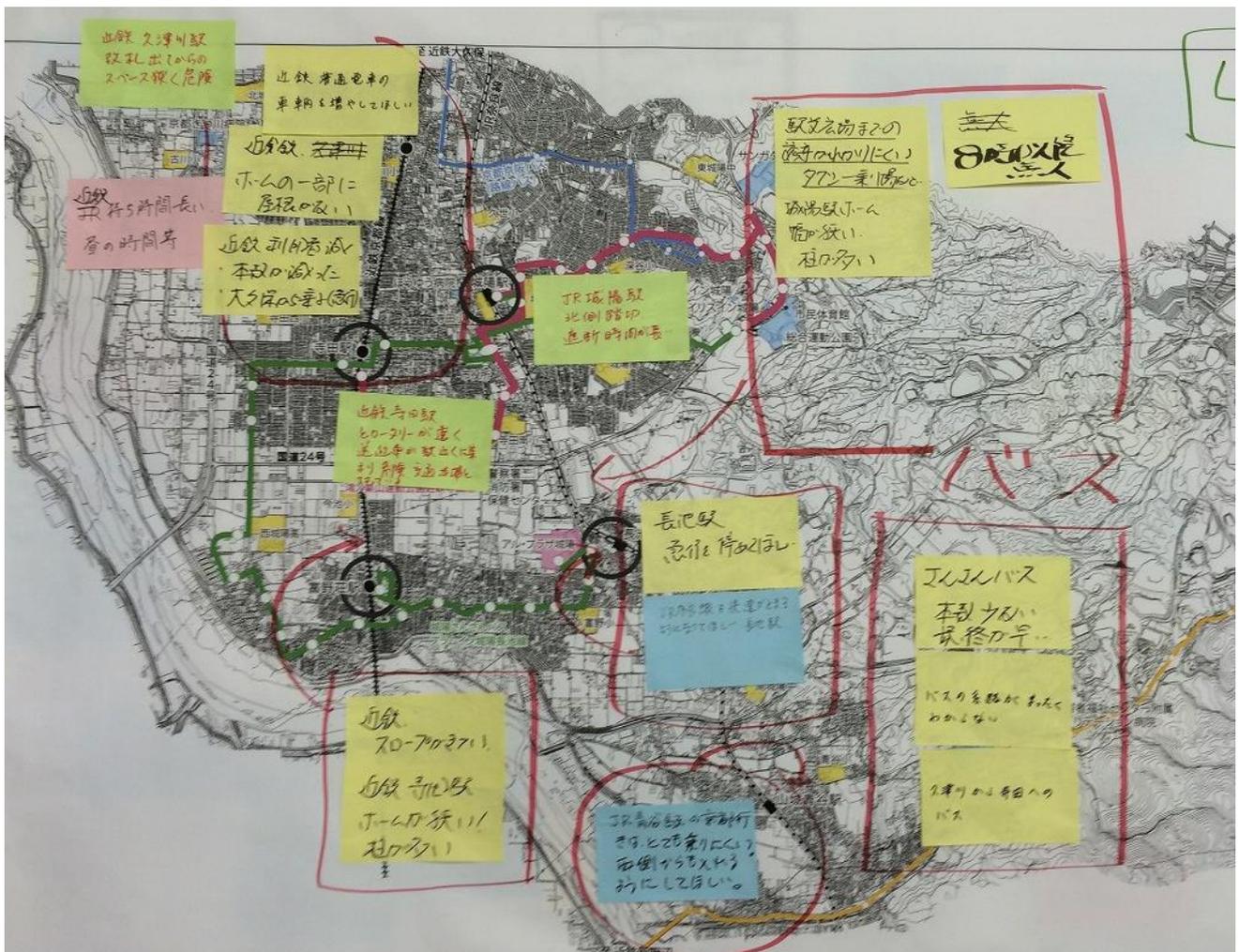
▲ 3班が考えた公共交通を便利にするための意見

《4班の意見交換の様子》

4班のみなさん、ありがとうございました。公共交通を快適に利用するための視点で考えてくださいました。



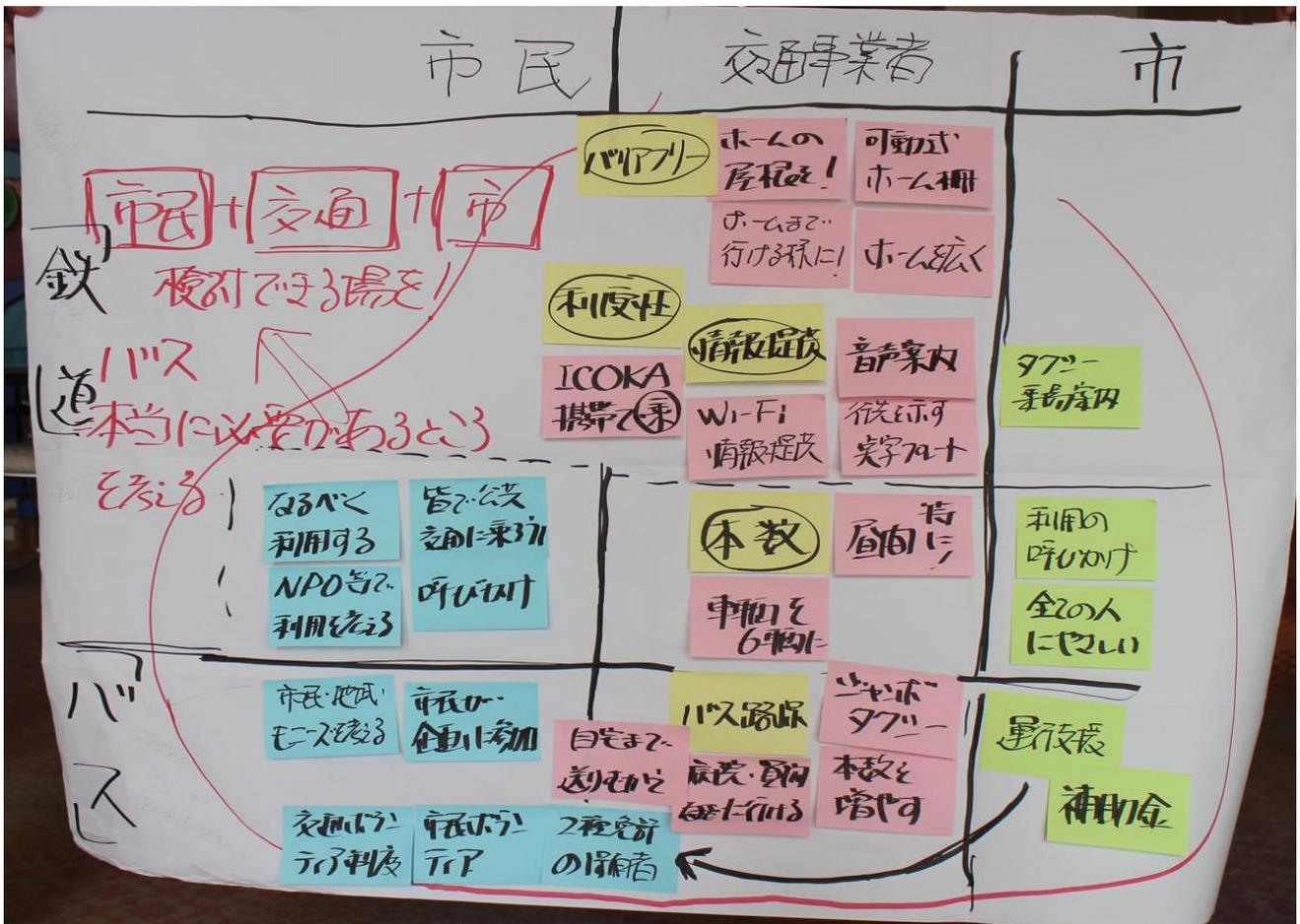
意見交換の様子



▲ 4班が考えた公共交通の良い所と不便な所



発表の様子



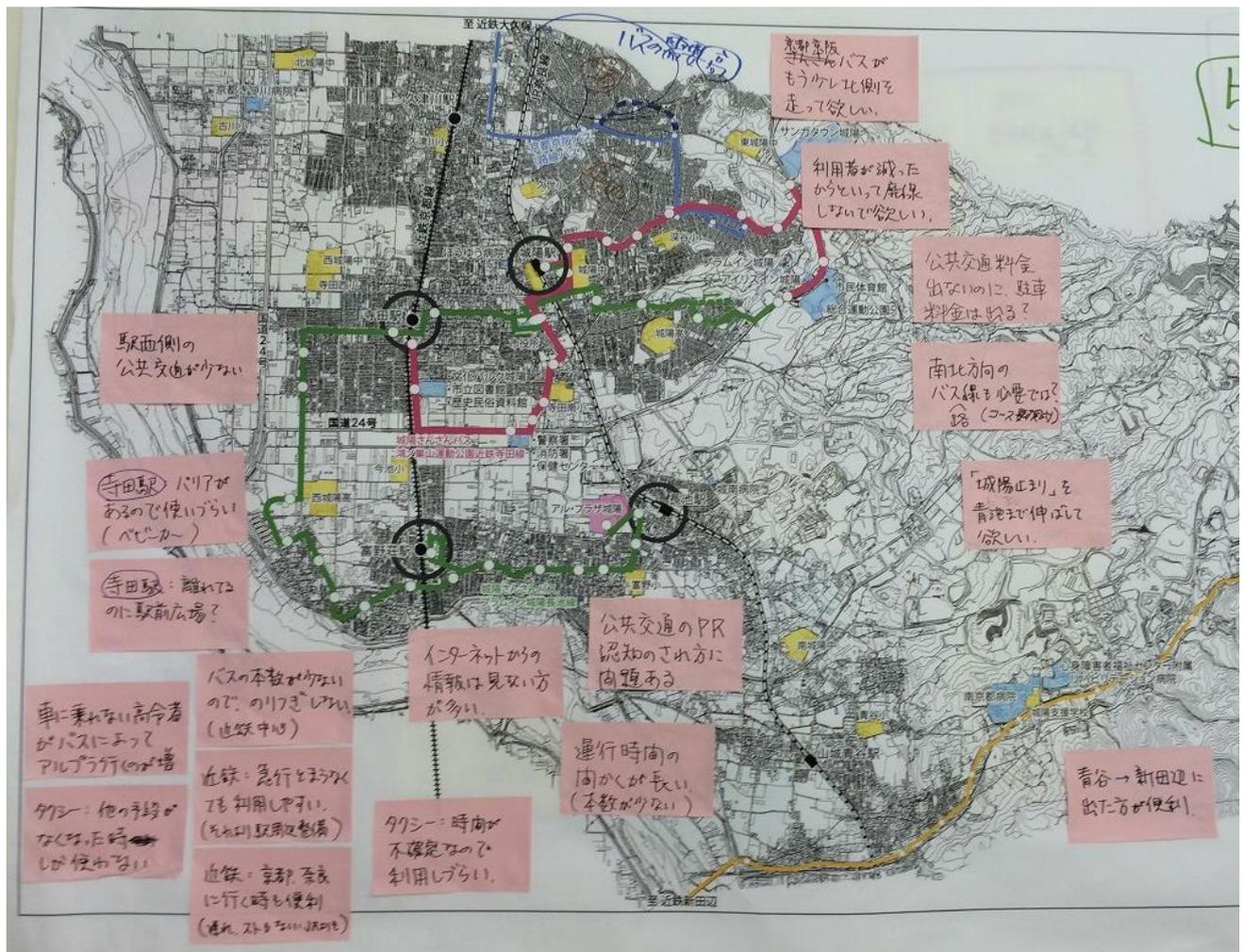
▲ 4班が考えた公共交通を便利に使うための意見

《5班の意見交換の様子》

5班のみなさん、ありがとうございました。「利用してポイントをためる」という子どもも楽しく乗れる視点で考えてくださいました。



意見交換の様子



▲ 5班が考えた公共交通の良い所と不便な所



発表の様子

	利用者(市民)	行政	交通事業者	協働
鉄道		公共交通の一環として交通手段も提供する。共通	鉄道：バリエーション化	「交通保険」の様なシステムを作る
路線バス	バスルートに合わせたニーズを把握する。	域場市と宇治市が連携してバスを走らせる。	利便性を高める(本数、ルート)	
さんさんバス	乗らないと本数が増えない(利用する機会が増える) 検けお機会を設け、意見を集約して要望する。共通	利用時にシールを貼ってあげる(子どもの利用促進) 免許返納制度を活用する。共通 *(特例) (補助) 自動車学校バス等を一般の方も利用できるようにする。共	さんさんバス：運行時間を伸ばす	ポイント制度(特典)を設ける 社会実験の実施(試行ルート運行)
タクシー	情報共有を充実(自治会を活用)	情報発信を充実(広報の活用)		

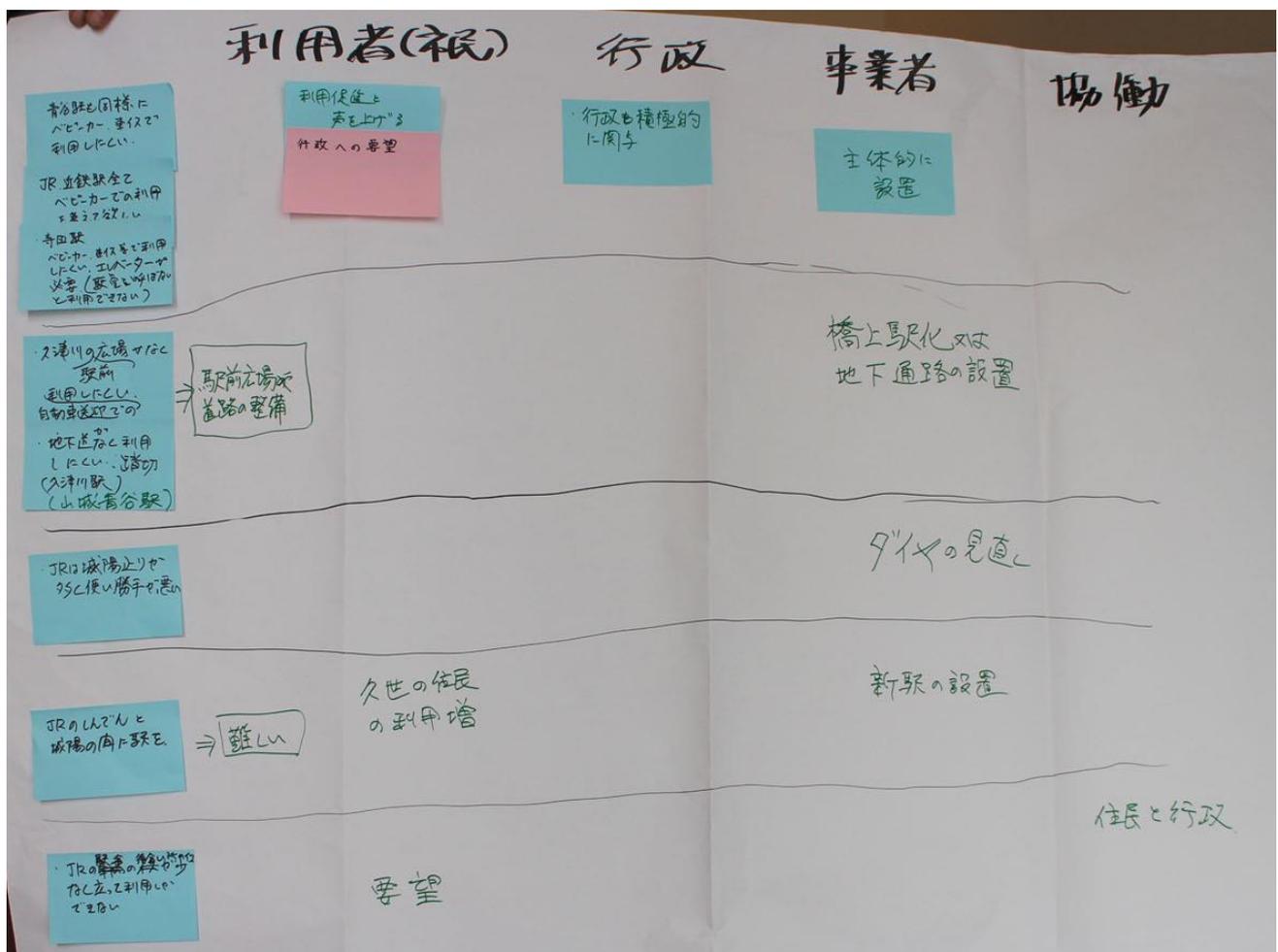
▲ 5班が考えた公共交通を便利に使うための意見

《6班の意見交換の様子》

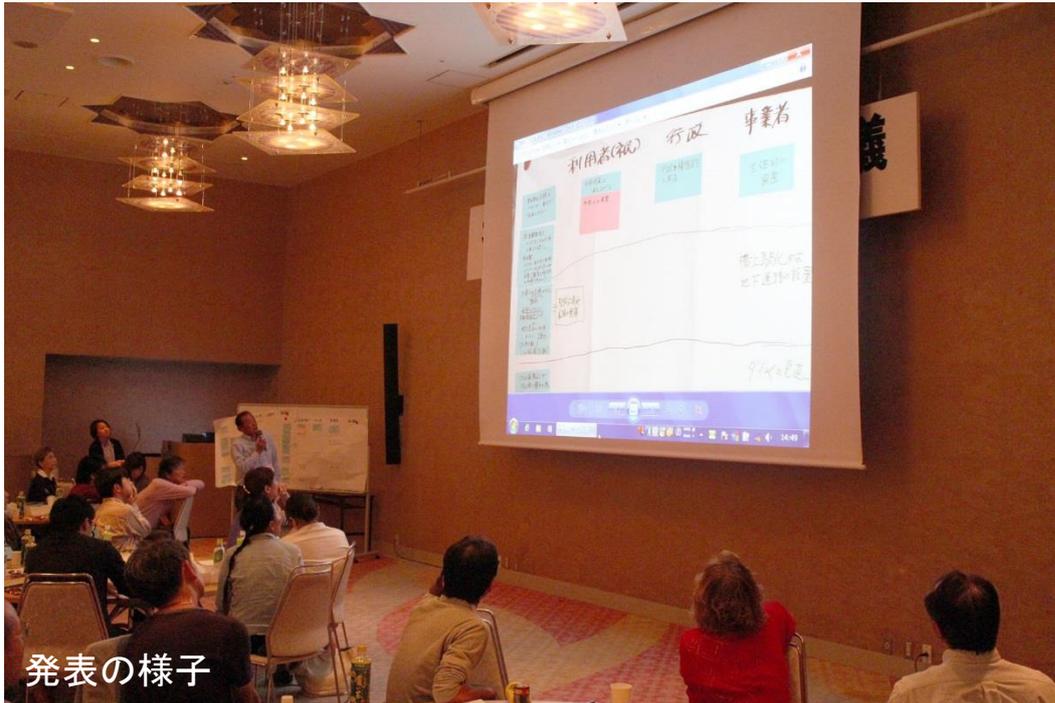
6班のみなさん、ありがとうございました。車内広告で地域密着度を高め、自分たちが今すぐできる取り組みの視点から考えてくださいました。



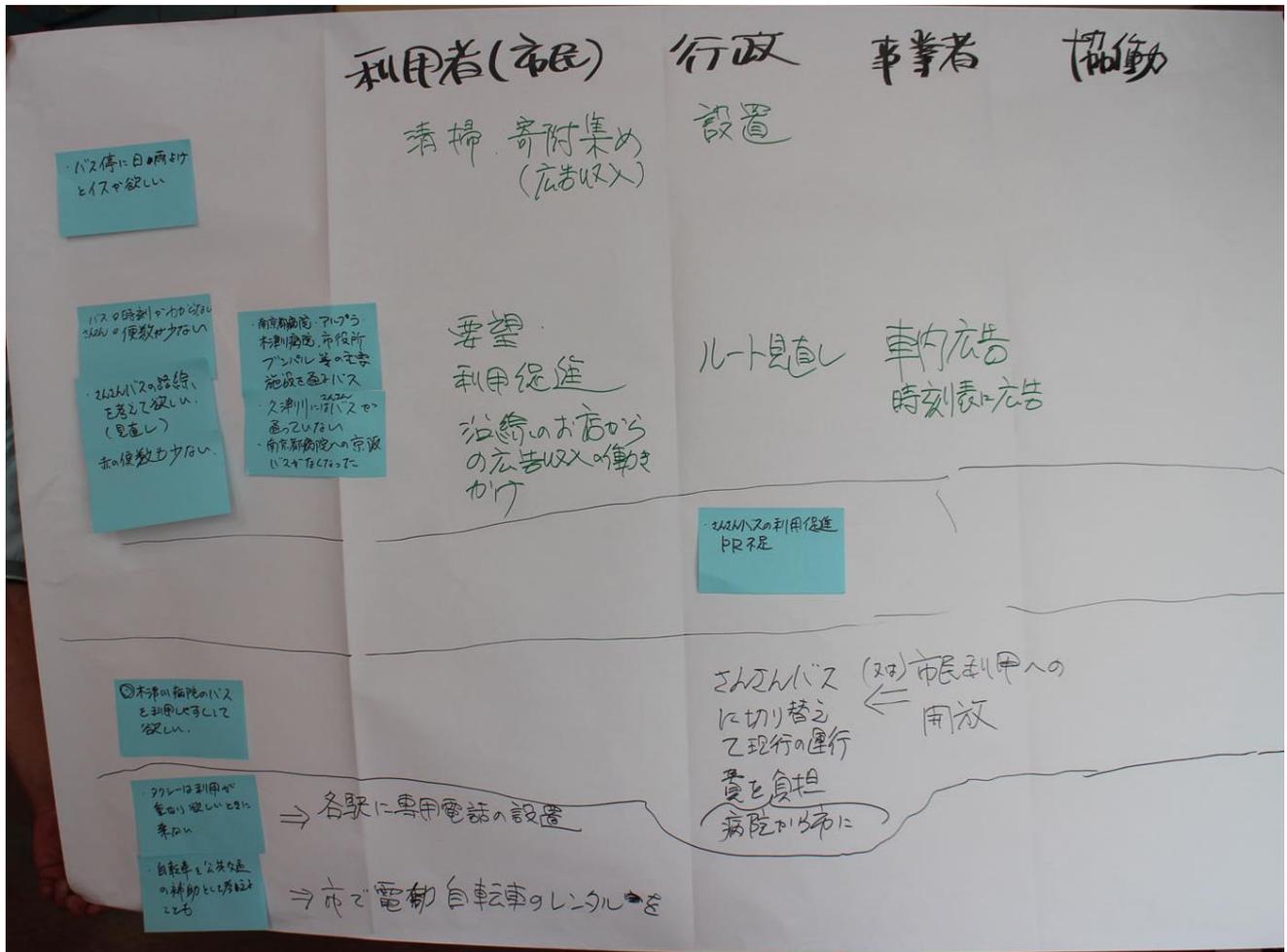
意見交換の様子



▲ 6班が考えた公共交通の良い所と不便な所



発表の様子



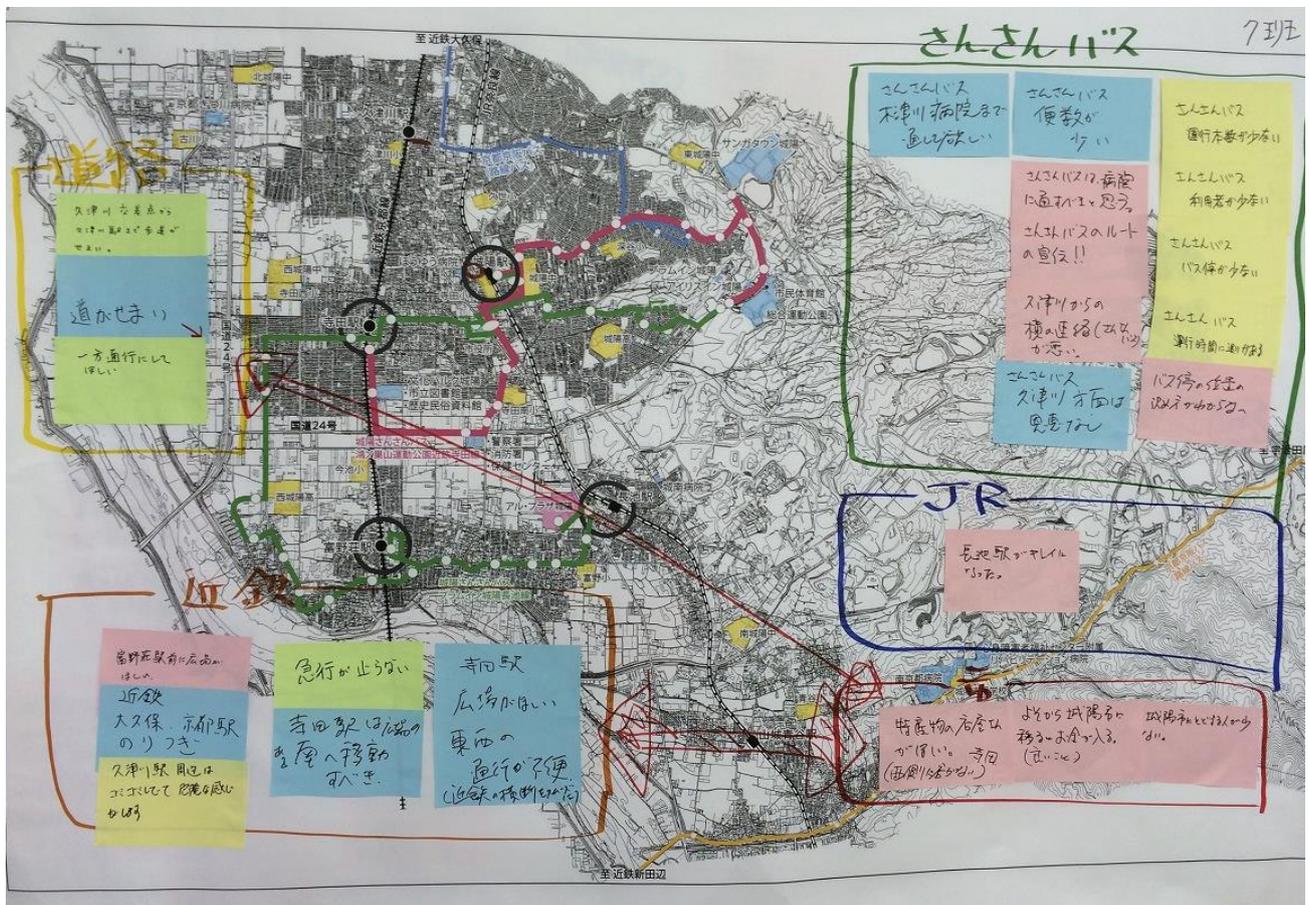
▲ 6班が考えた公共交通を便利に使うための意見

《7班の意見交換の様子》

7班のみなさん、ありがとうございました。乗ってみたいくなるバスや、イベント時の大量輸送などの視点から考えてくださいました。



意見交換の様子



▲ 7班が考えた公共交通の良い所と不便な所



発表の様子



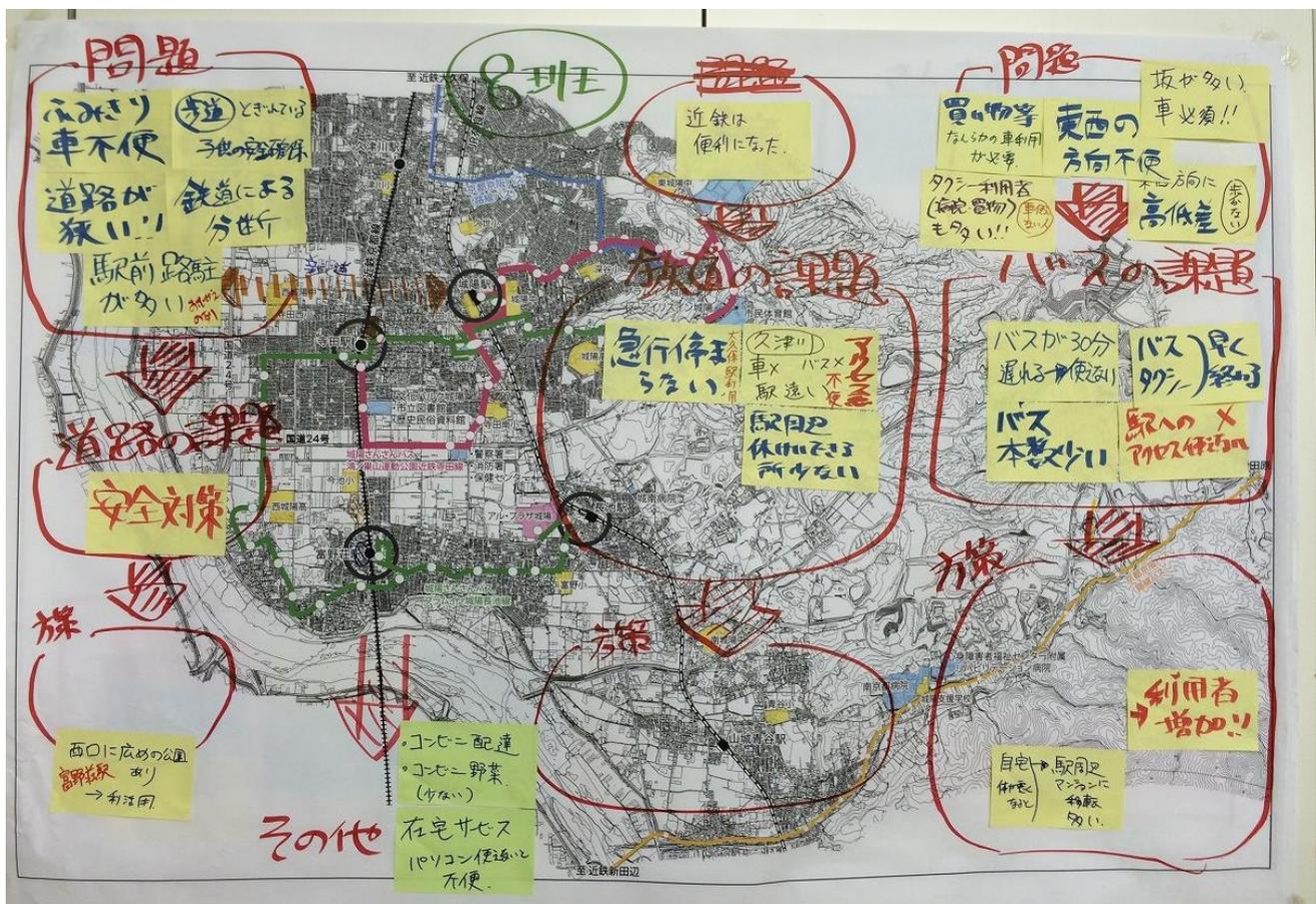
▲ 7班が考えた公共交通を便利に使うための意見

《8班の意見交換の様子》

8班のみなさん、ありがとうございました。バスをさらに乗りやすくするための一工夫の視点から考えていただきました。



意見交換の様子



▲ 8班が考えた公共交通の良い所と不便な所



発表の様子



▲ 8班が考えた公共交通を便利にするための意見

3-3 各班から出た意見の集約

各班で検討した内容について、交通機関の種類ごとに「利用者（市民）の役割」「行政の役割」「交通事業者の役割」「協働で進める内容」の4つの役割分担の視点から意見を集約しました。

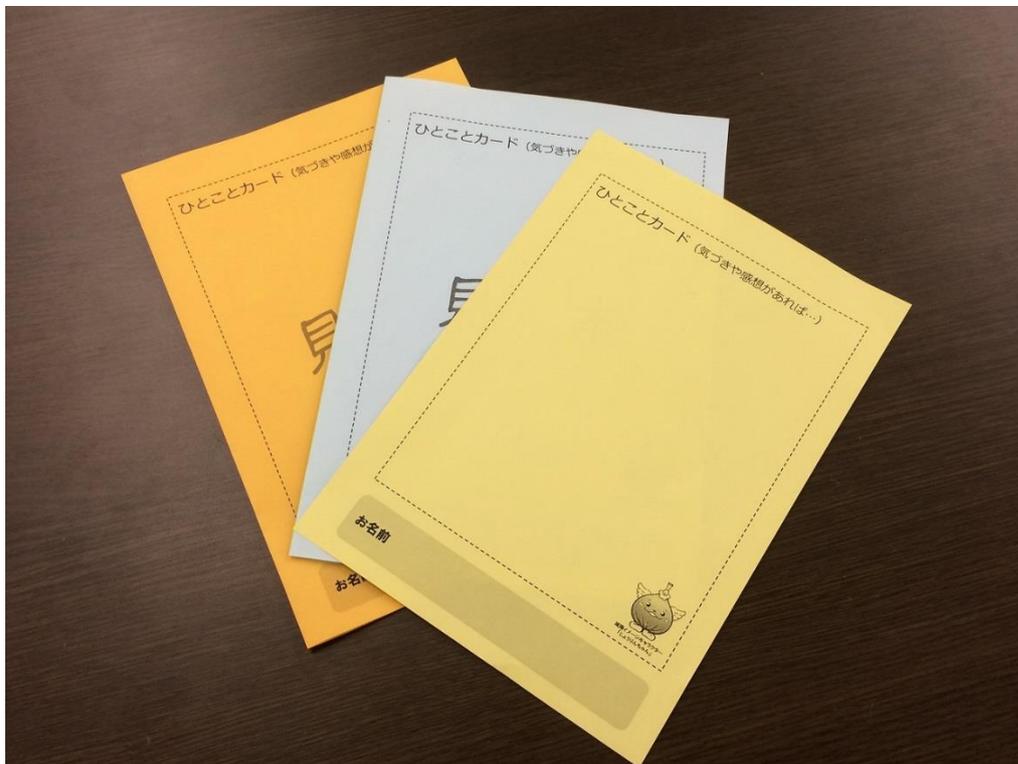
城陽未来まちづくり会議における「当日の意見」

	利用者（市民）	行政	交通事業者	協働
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーカー車椅子での利用可能とするための利用促進と要望の声を上げる ・JR新駅の設定により久世の住民の利用増が見込まれる ・近鉄に急行と乗継の利便性向上の要望 ・なるべく利用する ・利用を市民同士が呼びかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターの設置に向けて積極的に関与する ・久津川駅での利用が不便であり、駅前広場又は地下道の設置 ・近鉄に急行と乗継の利便性向上の要望 ・利用の促進・呼びかけ ・駅周辺の歩道・自転車道の整備 ・近鉄駅の駅施設（広場、道路）の整備 ・公共施設を駅周辺に集約 ・急行停車駅へのアクセス強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にエレベーターを設置 ・JRは城陽止まりが多く南に向けて使いづらいため、ダイヤの見直しを ・JRの新田と城陽の間に新駅の設置を ・近鉄大久保駅での乗継の利便性の向上を図る ・バリアフリー化（ホーム、音声、点字） ・本数を増やす（昼間） ・バイクの駐輪場整備 ・駅前広場の駐停車場整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の利用が多くなっており、JRの駅舎の待合所に椅子の設置を市と住民が協働で働きかける ・近鉄の急行乗継について市民、行政、近鉄と一緒に検討する ・「交通保険」のようなシステム構築（鉄道に限らず） ・サービス向上に向けた社会実験の実施（鉄道に限らず） ・城陽駅周辺の治安対策
路線バス	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、検討する機会を設け、ニーズの把握・集約する ・意識改革（公共交通の利用促進） ・カーシェアリング ・バスマップ ・地域住民同士の助け合い（車椅子、運転サポート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設利用者に公共交通サービスをあわせて提供 ・宇治市と連携してバス運行 ・高齢者利用推進のためのサービス ・道路（運行ルート）の拡幅 ・免許自主返納 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに合わせて利便性向上（本数、ルート） ・デマンドバスの運行 ・他都市を行き来できる運行実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の施設（自動車学校、病院）バスを一般に開放 ・イベントなどで利用機会を増やす ・ターゲット、目的地、時間帯を絞り込む→ニーズを調査して運行を効率化（アンケート実施） ・目的地のスーパーからの協賛金、サポート

	利用者（市民）	行政	交通事業者	協働
さんさんバス	<ul style="list-style-type: none"> バス停に設置された待合所の清掃や広告収入のための寄付集め 路線、ダイヤの見直し要望、利用促進、沿線のお店からの広告収入の働きかけ 市民は、利用する施設がどこにあるのか把握する（施設がどこにあるかによって、バスの利用がわかる） 市民が企画に参加する。（ルート、頻度） 地域ボランティア制度（市民の力の活用） 自治会が路線情報等を発信 カーシェアリング バスマップ 	<ul style="list-style-type: none"> バス停に待合所の設置、ルートの見直し バス利用の促進に向けて積極的なPRを 料金体系（100円に）の見直しの検討 ルートの見直しについては、病院等を回るなどを検討する サービスの充実（ポイント制度、子どもにシールを貼ってあげる） 免許返納制度の活用 民間・市民との協働による議論をして使いやすいバスにする 高齢者が利用しやすい運賃設定 無料デーを設け、まずは乗ってみることの誘導 わかりやすい時刻表、ルートマップの作成・配布でPRを バスの便利さをPRする 	<ul style="list-style-type: none"> 車内広告、時刻表への広告掲載 終バス延長による利用促進 乗ること自体が目的になるような魅力づくり（乗って楽しい） 運転手のサービス向上・案内の向上 利用者数に応じてシャトルバスや急行ルートを 細やかで、弾力的な運行の充実 地域ごとでの市民意見の収集 収支や時間帯における利用者数の見える化 路線を絞り、便数を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 通ってほしいルートについて、行政と一緒に検討する 民間・市民との協働による議論をして使いやすいバスにする
タクシー		<ul style="list-style-type: none"> さんさんバス以外でのルートの検討（ジャンボタクシーなどで） タクシーターミナルの数を増やすことの検討 免許を返却したら、タクシーチケットを補助 	<ul style="list-style-type: none"> 各駅に専用電話の設置 イベント時での台数の確保 デマンドタクシーの導入 バイクタクシーの運行 利用が多い人のためのクーポンサービス 	<ul style="list-style-type: none"> さんさんバス以外でのルートについて（ジャンボタクシーなどで）を事業者、行政、市民と検討
その他	<ul style="list-style-type: none"> 木津川病院のバスを利用しやすくしてほしい 自転車公共交通の補助として利用 情報共有を充実（自治会の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> 木津川病院のバスをさんさんバスに切り替えて、現行のバス運行費を病院が負担 電動自転車のレンタルを 情報発信の充実・工夫（広報の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> 木津川病院のバスを市民の利用に開放してほしい 	

3-4 参加者アンケート（ひとことカード）の内容

城陽未来まちづくり会議の当日「ひとことカード」を配布し、会議全体を通じた意見を書いていただきましたので、内容を紹介します。



《公共交通に関して》

- ・ 駐車場経営者と提携してカーシェアリング（自動車の共同使用）を運用すれば良いと思います。
- ・ 各種送迎バス（病院・ホーム・幼稚園・デイサービス他）を市民が利用できるバスとして運行できないでしょうか。
- ・ バス増便は道路事情により経営は困難だと思われるので、乗合タクシーとの連携が考えられないでしょうか。
- ・ 現在ある4カ所のタクシーターミナルを、南京都病院・市役所・イズミヤ・コミュニティセンター・老人福祉センター等に増やして乗りやすくしてはどうでしょうか。
- ・ バイクタクシーをさらに検討したらどうでしょうか。
- ・ バス停までの歩行に、老人もライト付き防犯ブザーを持ち歩いてほしいです。
- ・ 車いすは踏切の通行が危険なので、赤旗と発煙筒を常備してほしいです。

《さんさんバスについて》

- ・様々な話を聞いて、さんさんバス本来の目的（ターゲットはどこにあるのか）を見直し、利用促進を行う必要があると思いました。
- ・市民のニーズを調査し、目的地（久御山イオン、宇治市等）を絞った土日祝日限定のバスをテスト運行してみたらどうでしょうか。
- ・現状でプラムインとアルプラザで折返しになっていますが、循環型にした方が利便性はアップすると思います。
- ・さんさんバスは本数を増せばもっと利用者が増えると思います。
- ・さんさんバスの利用者内訳、利用者の多いバス停の状況等、さらに詳細な資料があるともっと検討ができたと思います。
- ・さんさんバスは道路網を構築し、狭さを解消しなければ難しいと思います。
- ・さんさんバスがもっと便利になれば利用したいと思います。
- ・今後、年老いて行動できなくなる事を考えると、さんさんバスは必要になると思いますので、行政の取組に期待します。

《全体を通して》

①提案内容を進めていくために

- ・市民、事業者、行政が公共交通施策の検討や、チェックできる委員会のようなものが必要ではないでしょうか。
- ・バリアフリー等の課題については、市民が参加するフィールドワークのようなものが定期的に必要だと思います。
- ・行政側にとって都合の良いアイデアを実行するのではなく、今回のアイデアを一つ一つ検証し、実行の可能な事、不可能な事、行動したがダメだった事などが公表できるとすばらしいです。
- ・今回の会議で出た課題や提案・要望等は将来に向けて実現させ、より住みやすい城陽市になって活性化されればと思います。
- ・公共交通機関を見直す現状に合ったベストな選択があると思いますので、お金をかけるだけでなく知恵を出して改善していくことを望みます。
- ・本日出された意見は予算の範囲内で少しずつでも取り入れてください。
- ・課題を解決するには時間がかかりますが1つでも活かしたら良いと思います。
- ・長期的なプランでも1つずつ問題が解決できたらいいと思います。

②テーマについて

- ・テーマの設定が大きいので一般論が多くなると思います。
- ・この会議の位置づけが分からず、思いつきの発案が多かったため、会議が始まる前に、提案を市政に活かせるようにするとの説明があれば良かったと思います。
- ・テーマが決まっていて事前に資料に目を通してあるので、初対面の方とも意見交換することができました。
- ・参加募集前にテーマを決めてほしいと思います。
- ・高齢者問題は公共交通のテーマだけで良かったのでしょうか。
- ・高齢社会における公共交通のあり方がテーマであったが、城陽市の都市交通のあり方に力点が集まってしまったようです。それでも色々な公共交通の意見が聞けて大変有意義でした。

③参加者について

- ・20歳代の若い人たちの参加も望まれます。
- ・テーマに対して専門知識のある人や専門家も参加してほしいです。
- ・今回のテーマは城陽警察署や市の担当課も参加してほしいです。
- ・市の職員が少ないので資料に載っていないデータについて聞けませんでした。

④今後の開催について

- ・他の分野でも会議を開催して、市民のパワーを取り上げてもらいたいです。
- ・未来まちづくり会議なので町おこしの話をしたいと思います。
- ・このような会議が今回限りで終わるのでなく継続してほしいと思います。
- ・今回のような取組みは色々な生活パターンの方が参加できるように、開催回数を増やした方が良くと思います。
- ・未来まちづくり会議であれば交通の話でなく、「子どもの増加」「税収入の増加」「事業者の増加」をテーマに検討すべきだと思います。
- ・次回ある時は地域ごとの集会を希望します。

⑤その他

- ・普段の生活で関わらない方々と意見交換することに不安はあったが、将来のより良い城陽市をつくるためのものだとしたら、とても楽しみです。
- ・今回は無作為の抽選で選ばれた市民の方だったので、住んでいる地区や年齢、普段利用する交通手段等、違った方々との意見交換ができました。
- ・全体の意見が聞け、個々の意見が集約された会議で良かったと思います。
- ・高齢化社会に対して、自分なりにどのように行動していかなければ考えてみたいと思います。

城陽未来まちづくり会議 (報告書 資料編)



城陽イメージキャラクター
「じょうりんちゃん」

報告書 資料編

目 次

資料 1. 城陽市の概要.....	資料-1
1) 城陽市の位置・地勢・沿革.....	資料-1
2) 城陽市の人口.....	資料-1
3) 城陽市の公共交通の現状.....	資料-2
(1) 鉄道.....	資料-2
(2) 路線バス・コミュニティバス.....	資料-6
(3) タクシー.....	資料-8
(4) 城陽市老人福祉センター送迎バス.....	資料-9
資料 2. 城陽市の上位計画・関連計画の概要.....	資料-10
1) 上位計画における公共交通の位置づけ.....	資料-10
2) 市民アンケートによる公共交通に関する意見.....	資料-11
資料 3. 公共交通施策の推進に向けた他都市の事例.....	資料-12
資料 4. 城陽未来まちづくり会議に向けた市民ニーズの把握.....	資料-15
1) 調査の概要.....	資料-15
2) 調査の結果.....	資料-18
資料 5. 報告書に出てくる用語の説明.....	資料-28

資料 1. 城陽市の概要

1) 城陽市の位置・地勢・沿革

本市は京都と奈良を結ぶ国道24号が南北に縦断しています。また京都から五里、奈良から五里と二つの都のほぼ中間に位置し、古くから交通の要衝として位置づけられ、「五里五里の里」とも呼ばれてきました。

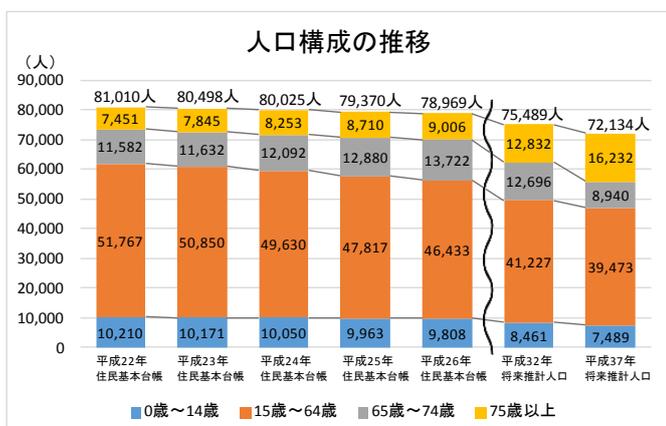
市の西部はおおむね平坦で、東部に向かうにつれて起伏の多い地形になっています。また、北部の久津川地区周辺には古墳や遺跡が数多く分布し、南部の長池地区周辺には江戸時代の大和街道の宿場町としての形態が残されています。

現在の市街地は、久津川、寺田、富野荘、青谷の4ヶ村の合併を経て、京都・大阪都市圏の影響を受けながら発展してきました。

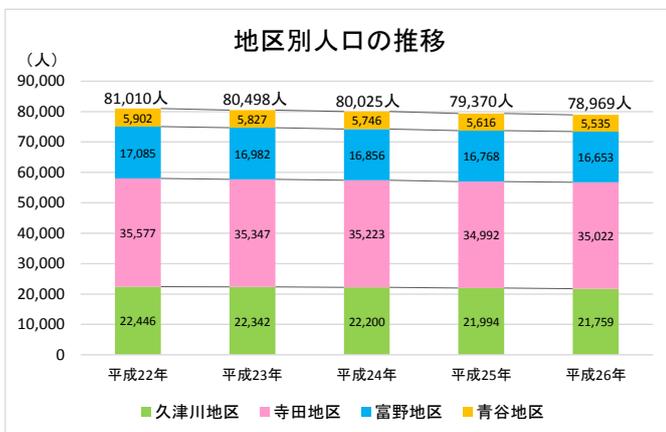
2) 城陽市の人口

城陽市の人口は減少傾向が続いており、年代別にみると64歳以下の人口が減少し、65歳以上の人口が増加しています。

地区別の人口はいずれの地区も減少傾向が続いています。



出典：城陽市住民基本台帳（各年4月1日現在）
国立社会保障・人口問題研究所



出典：城陽市住民基本台帳（各年4月1日現在）

3) 城陽市の公共交通の現状

(1) 鉄道

城陽市にはJR奈良線と近鉄京都線が走っており、停車駅は全部で6つあります。

平成24年度における鉄道利用者数は、約6,481,000人/年となっており、このうち約7割が運行本数の多い近鉄の利用者となっています。

《JR奈良線》

JR奈良線には城陽駅、長池駅、山城青谷駅の3駅があり、このうち城陽駅は快速停車駅となっています。

JR奈良線の利用者数は、平成20年度から24年度の5年間で、おおむね横ばいの状況です。

城陽駅には、みやこ路快速が停車するため、他のJR駅に比べ利用者が多い状況です。

長池駅では、鉄道利用者が平成24年度に増加しています。これは、この年の6月に橋上駅舎や自由通路、駅前広場等が新たに整備されたことや、アル・プラザ城陽がリニューアルされた効果と考えられます。



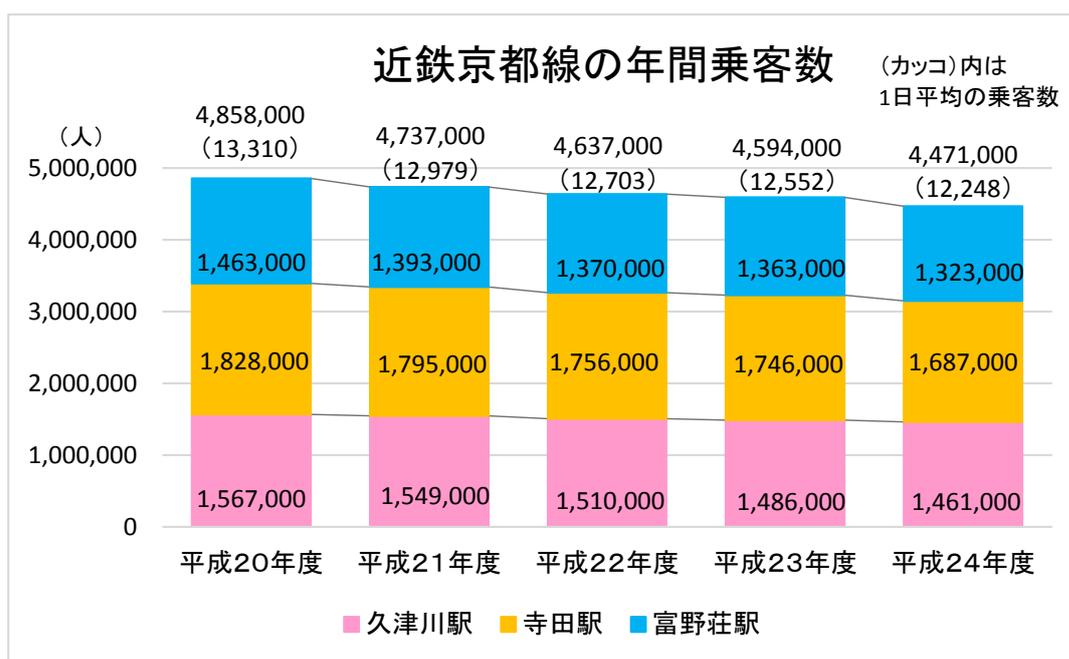
出典：平成25年版 城陽市統計書

(注) 千人未満を四捨五入しているため、合計が内訳の計と一致しない場合があります。

《近鉄京都線》

近鉄京都線には久津川駅、寺田駅、富野荘駅の3駅があり、3駅とも各駅停車駅となっています。

近鉄京都線の利用者数は、平成20年度から24年度の5年間で減少傾向が続いています。



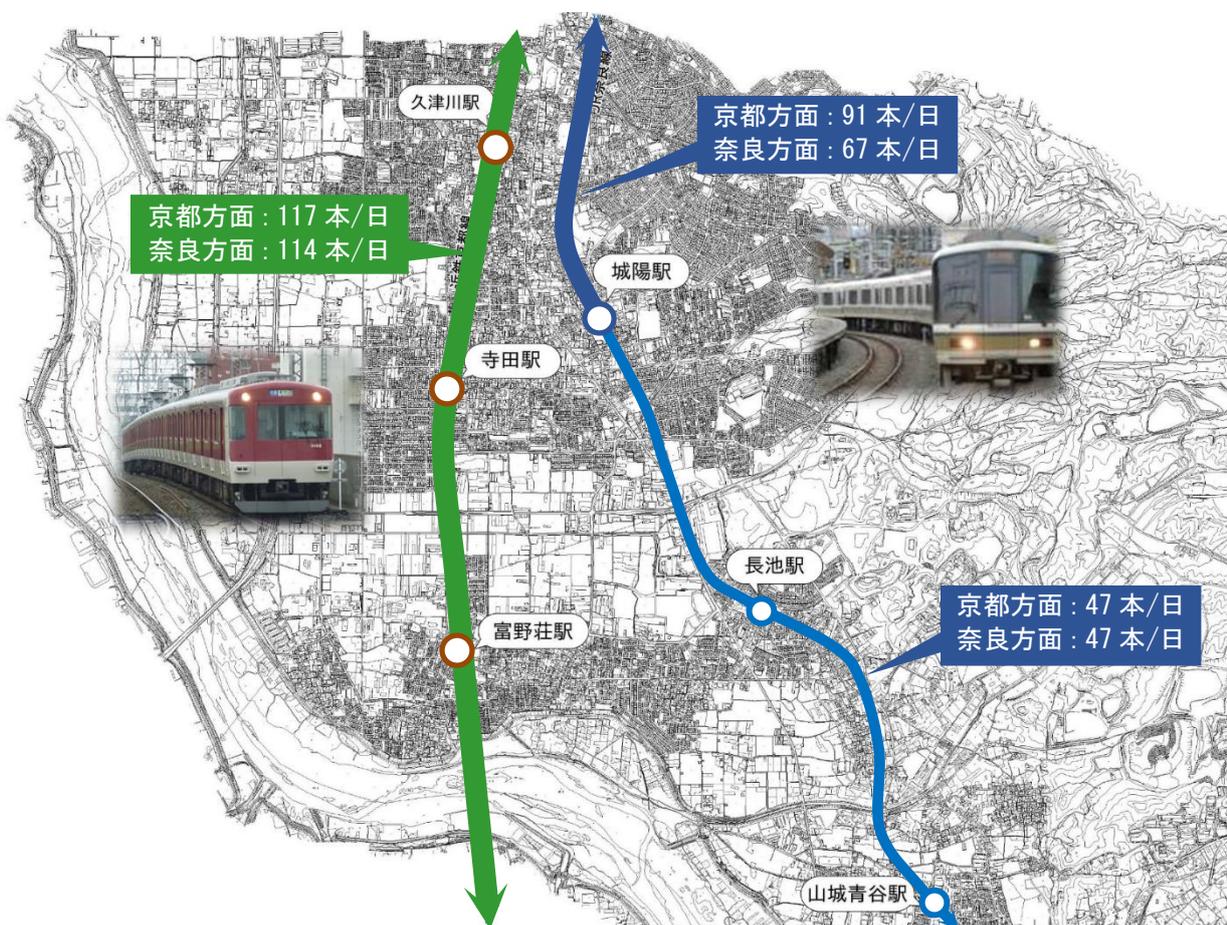
(注) 千人未満を四捨五入しているため、合計が内訳の計と一致しない場合があります。

《 JR奈良線と近鉄京都線の平日の運行状況 》

JR奈良線と近鉄京都線の平日の運行状況を表にまとめました。

	行き先	駅名	運行本数(1日)					運行本数 (通勤・通学 ピーク時1時 間当たり)	運行時間	
			普通	快速	区間 快速	みやこ路 快速	合計		始発	最終
JR 奈良線	京都方面	城陽	64本	4本	7本	16本	91本	7本	5時台	23時台
		長池	40本	—	7本	—	47本	4本	5時台	23時台
		山城青谷	40本	—	7本	—	47本	4本	5時台	23時台
	奈良方面	城陽	38本	4本	9本	16本	67本	4本	6時台	24時台
		長池	38本	—	9本	—	47本	3本	6時台	24時台
		山城青谷	38本	—	9本	—	47本	4本	6時台	24時台
近鉄 京都線	京都方面	久津川	117本	—	—	—	117本	9本	5時台	23時台
		寺田	117本	—	—	—	117本	9本	5時台	23時台
		富野荘	117本	—	—	—	117本	10本	5時台	23時台
	奈良方面	久津川	114本	—	—	—	114本	8本	5時台	24時台
		寺田	114本	—	—	—	114本	8本	5時台	24時台
		富野荘	114本	—	—	—	114本	9本	5時台	24時台

※近鉄の「普通」は準急を含む



《 JR奈良線と近鉄京都線の平日の運行状況 》

近鉄【久津川駅】

	1番ホーム改札 (下り 奈良方面)	2番ホーム改札 (上り 京都方面)
駐輪場	×	○ (屋根付)
駅前広場	×	×
ホームまでの車いす等での進入経路	有	有



JR【城陽駅】

	東口	西口
駐輪場	○ (屋根付)	○ (屋根付)
駅前広場	○ (自家用車・タクシー・バス)	×
ホームまでの車いす等での進入経路	有	有



近鉄【寺田駅】

	1番ホーム改札 (下り 奈良方面)	2番ホーム改札 (上り 京都方面)
駐輪場	○ (屋根付)	○ (屋根付)
駅前広場	○ (自家用車・タクシー・バス)	
ホームまでの車いす等での進入経路	有	有



JR【長池駅】

	北口	南口
駐輪場	○ (屋根なし)	○ (屋根なし)
駅前広場	○ (自家用車・タクシー)	○ (自家用車・タクシー)
ホームまでの車いす等での進入経路	有	有



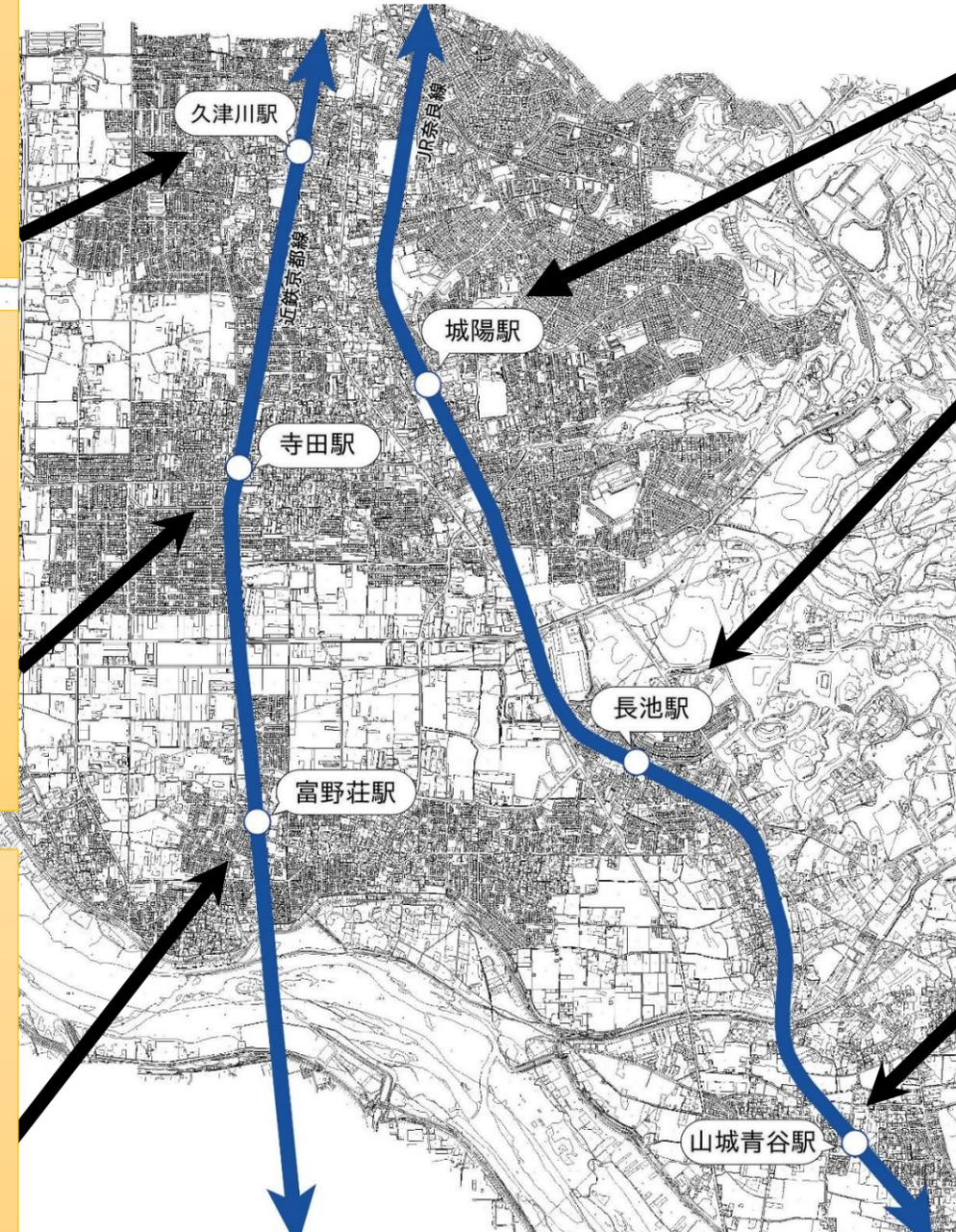
近鉄【富野荘駅】

	1番ホーム改札 (下り 奈良方面)	2番ホーム改札 (上り 京都方面)
駐輪場	○ (屋根付)	○ (屋根付)
駅前広場	×	×
ホームまでの車いす等での進入経路	有	有



JR【山城青谷駅】

駐輪場	○ (屋根なし)	
駅前広場	×	
ホームまでの車いす等での進入経路	下り奈良方面のみ有	



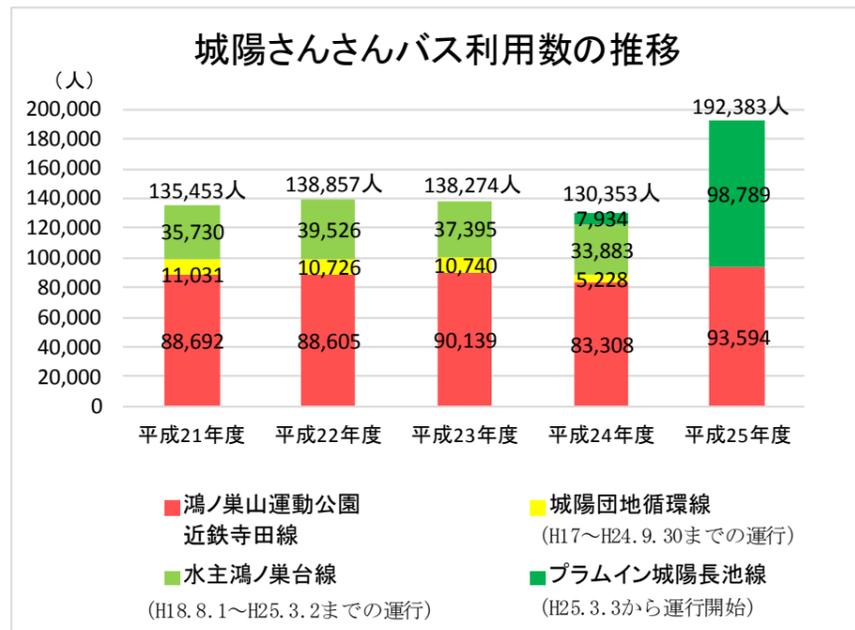
(2) 路線バス・コミュニティバス

① 城陽さんさんバスの利用者数の推移

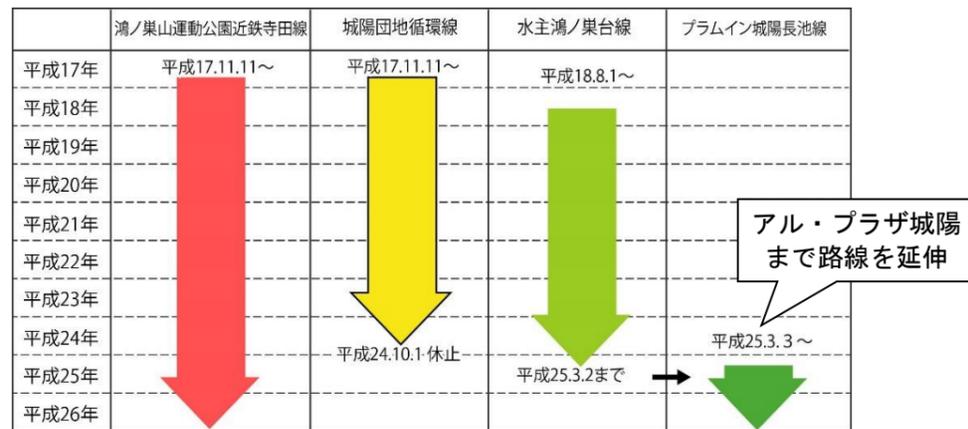
城陽さんさんバスは、従来の東部地域を運行していたバス路線を再編し、平成17年11月に運行を開始しました。

路線の変更等を行いながら、現在は「鴻ノ巣山運動公園近鉄寺田線」と「プラムイン城陽長池線」の2路線が運行しています。

年間の利用者数は13万人台で推移していましたが、平成25年3月に、水主鴻ノ巣台線をアル・プラザ城陽まで延伸（→プラムイン城陽長池線として再編）したこともあり、利用者数が13万人台から19万人台に増加しています。



図一 城陽さんさんバス利用者の推移
出典：城陽さんさんバス年間利用者数の推移（城陽市まちづくり推進課）



図一 城陽さんさんバスの路線変更の経緯
出典：城陽さんさんバス年間利用者数の推移（城陽市まちづくり推進課）

② 城陽さんさんバスと鉄道の乗り継ぎ状況

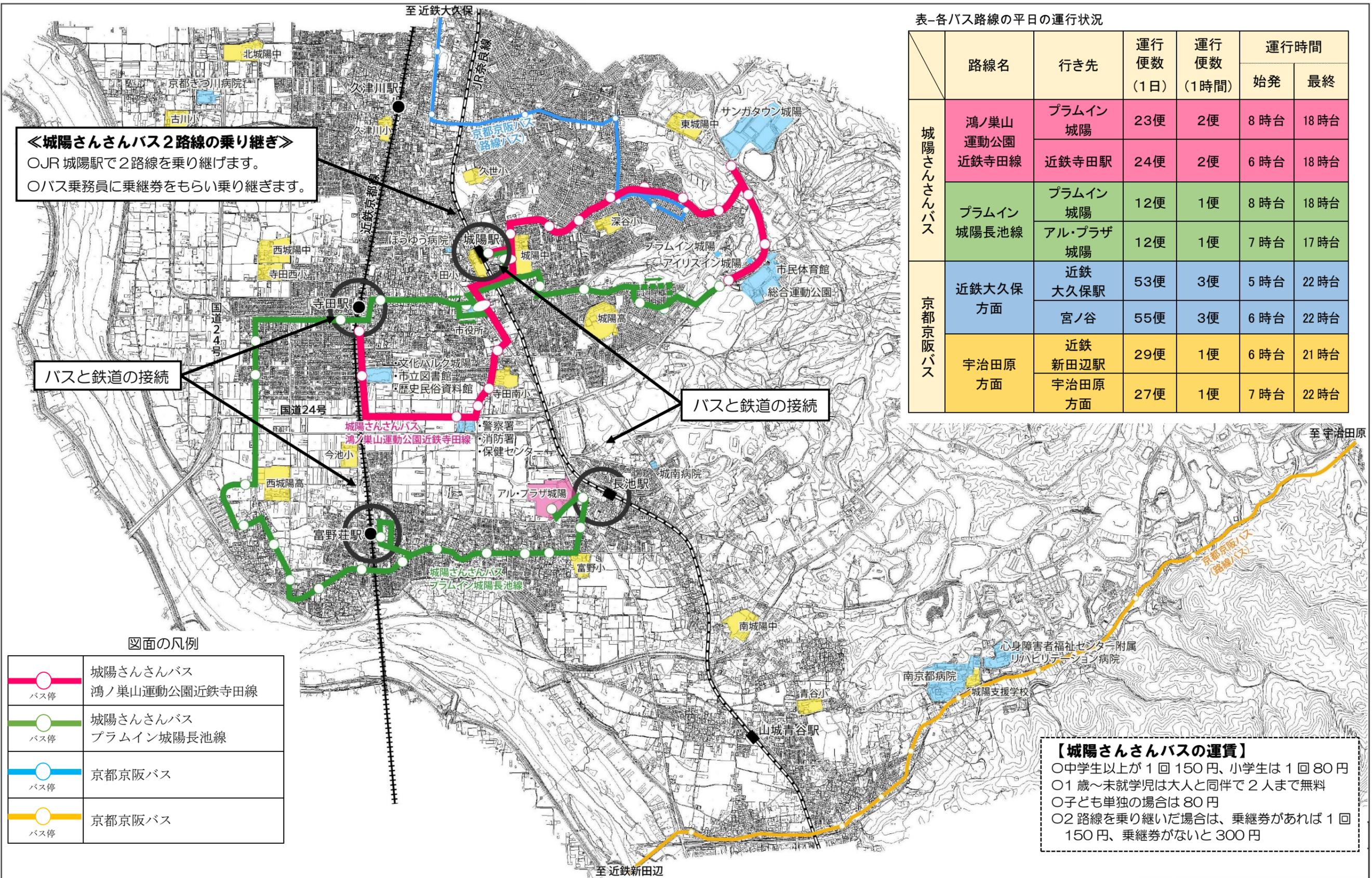
路線名 駅名	鴻ノ巣山運動公園近鉄寺田線	プラムイン城陽長池線
JR城陽駅 ※さんさんバス2路線が乗り継ぎできます。	 ・駅前広場内にバス停があります。 ・「1番のりば」を利用します。	 ・駅前広場内にバス停があります。 ・「2番のりば」を利用します。
JR長池駅	-	 ・長池駅の西側約200mの位置に長池駅西口バス停があります。
近鉄寺田駅	 ・寺田駅の南東約200mの位置に「近鉄寺田」のバス停があります。	 ・寺田駅の北東約50mの位置に「寺田駅東口」のバス停があります。
近鉄富野荘駅	-	 ・駅の東出口のすぐ前にバス停があります。

③ 城陽さんさんバス、京都京阪バスの運行状況

※城陽さんさんバスの運行には、市からの補助金として年間41,466千円を支出しています。(平成24年度決算)

表-各バス路線の平日の運行状況

	路線名	行き先	運行便数 (1日)	運行便数 (1時間)	運行時間	
					始発	最終
城陽さんさんバス	鴻ノ巣山運動公園 近鉄寺田線	プラムイン城陽	23便	2便	8時台	18時台
		近鉄寺田駅	24便	2便	6時台	18時台
	プラムイン城陽長池線	プラムイン城陽	12便	1便	8時台	18時台
		アル・プラザ城陽	12便	1便	7時台	17時台
京都京阪バス	近鉄大久保方面	近鉄大久保駅	53便	3便	5時台	22時台
		宮ノ谷	55便	3便	6時台	22時台
	宇治田原方面	近鉄新田辺駅	29便	1便	6時台	21時台
		宇治田原方面	27便	1便	7時台	22時台



◀城陽さんさんバス2路線の乗り継ぎ▶
 ○JR 城陽駅で2路線を乗り継げます。
 ○バス乗務員に乗継券をもらい乗り継ぎます。

バスと鉄道の接続

バスと鉄道の接続

図面の凡例

	城陽さんさんバス 鴻ノ巣山運動公園近鉄寺田線
	城陽さんさんバス プラムイン城陽長池線
	京都京阪バス
	京都京阪バス

【城陽さんさんバスの運賃】
 ○中学生以上が1回150円、小学生は1回80円
 ○1歳～未就学児は大人と同伴で2人まで無料
 ○子ども単独の場合は80円
 ○2路線を乗り継いだ場合は、乗継券があれば1回150円、乗継券がないと300円

(4) 城陽市老人福祉センター送迎バス

城陽市内には4ヶ所老人福祉センターがあり、利用者のための送迎バスとして運行されています。

送迎バス時刻表 (迎え)

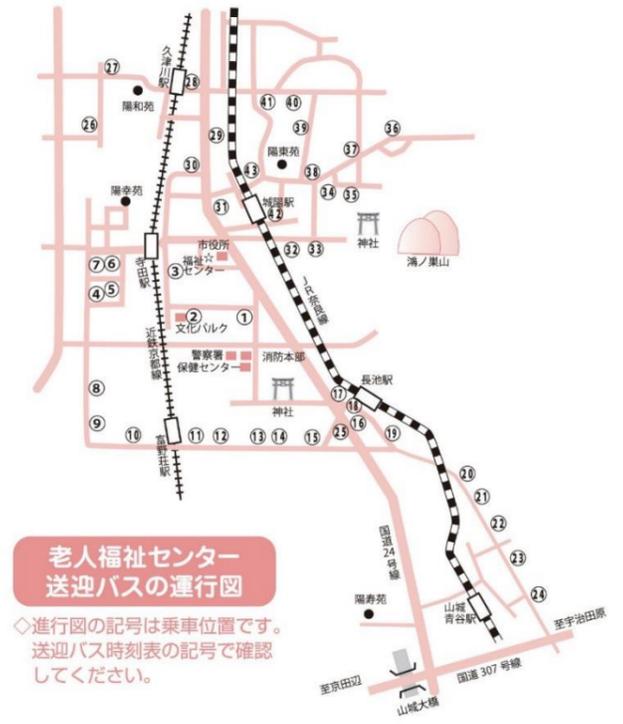
陽寿苑・陽幸苑					陽和苑・陽東苑・陽幸苑				
No.	停留所	時刻	備考		No.	停留所	時刻	備考	
●	陽寿苑	8:33			●	陽幸苑	8:33		
1	寺田南小バス停(北行)	8:41			26	ライフアカデミー前	8:41		
2	文パルク正面玄関前	8:43			27	西酒店前	8:43		
3	ライフ南側	8:44			●	陽和苑	8:44	着発	
4	若葉バス停(北行)	8:49			28	京都中 信久津川支店前	8:50		
5	大原診療所前	8:51			29	久世バス停(南行)	8:53		
6	東本建設前	8:52			30	福山診療所向	8:56		
☆	福祉センター前	9:00	着発	乗換①	31	寺田バス停(南行)	8:57		
●	陽幸苑	9:12	着発		☆	福祉センター前	9:00	着発	乗換①
7	古川橋南	9:15			32	浅野耳鼻科医院前	9:03		
4	若葉バス停(南行)	9:16			33	水度神社西側	9:09		
8	わかたけ理容室前	9:18			34	城南団地向	9:12		
9	中島電気店向	9:19			35	高橋酒店前	9:13		
10	りゅう焼肉店向	9:20			36	宮ノ谷バス停(西行)	9:15		
11	理容コダマ向	9:21			37	友が丘バス停(西行)	9:16		
12	中川常緑園茶舗前	9:22			38	尼塚バス停(西行)	9:17		
13	堀士内科医院前	9:23			39	城陽ローンテニス倶楽部前	9:20		
14	JA京都やましろ城陽南支店前	9:24			40	城陽市第二浄水場前	9:21		
15	お米のハセガワ前	9:25			41	下大谷バス停(西行)	9:22		
16	サガミ京都城陽店前	9:27			●	陽東苑	9:25	着発	
●	陽寿苑	9:32	着発		●	陽東苑	9:35	着発	
☆	福祉センター前	9:44	着発	乗換②	☆	福祉センター前	9:43	着発	乗換②
17	さんさんバス長池駅バス停(東行)	9:50			●	陽和苑	9:53	着発	
18	御菓子司松屋向	9:51			●	陽和苑	9:54	着発	
19	テラー河村店前(南行)	9:52			●	陽幸苑	10:02	着発	
20	上狛城陽線二本松バス停(南行)	9:53			42	男女参画センターバス停(北行)	10:15		
21	南城陽中正門前(南行)	9:56			43	東部コミセンバス停(北行)	10:16		
22	中村会館向	9:57			●	陽東苑	10:18	着発	
23	寿司処八梅向	9:58			●	陽東苑	10:19	着発	
24	旧魚勝畑中商店前(南行)	9:59			☆	福祉センター前	10:28	着発	乗換③
●	陽寿苑	10:05	着発		●	陽和苑	10:42	着発	
☆	福祉センター前	10:27	着発	乗換③	●	陽東苑	10:43	着発	
●	陽幸苑	10:40	着発		●	陽東苑	10:58	着発	
●	陽寿苑	10:41	着発						
●	陽寿苑	10:57	着発						

送迎バス時刻表 (送り)

陽寿苑・陽幸苑					陽和苑・陽東苑・陽幸苑				
No.	停留所	時刻	備考		No.	停留所	時刻	備考	
●	陽寿苑	14:30			●	陽東苑	14:35		
25	サークルK城陽北清水店前	14:36			●	陽和苑	14:50	着発	
1	寺田南小バス停(北行)	14:40			☆	福祉センター前	15:00	着発	乗換①
2	文化パルク正面玄関前	14:41			31	寺田バス停(北行)	15:05		
3	ライフ南側	14:43			30	福山診療所前	15:06		
●	陽幸苑	14:50	着発		29	久世バス停(北行)	15:07		
☆	福祉センター前	15:00	着発	乗換①	28	京都中 信久津川支店向	15:10		
●	陽寿苑	15:15	着発		●	陽和苑	15:16	着発	
24	旧魚勝畑中商店前(北行)	15:26			27	西酒店向	15:18		
23	寿司処八梅前	15:27			26	ライフアカデミー向	15:20		
22	中村会館前	15:28			●	陽幸苑	15:27	着発	
21	南城陽中正門前(北行)	15:30			4	若葉バス停(南行)	15:33		
20	上狛城陽線二本松バス停(北行)	15:32			5	大原診療所前	15:35		
19	テラー河村店前(北行)	15:33			6	東本建設前	15:36		
18	御菓子司松屋前	15:34			☆	福祉センター前	15:43	着発	乗換②
17	さんさんバス長池駅バス停(西行)	15:35			42	男女参画センターバス停(北行)	15:47		
☆	福祉センター前	15:43	着発	乗換②	43	東部コミセンバス停(北行)	15:48		
6	東本建設向	15:48			●	陽東苑	15:50	着発	
7	古川橋南	15:49			41	下大谷バス停(東行)	15:53		
5	大原診療所向	15:51			40	城陽市第二浄水場向	15:54		
4	若葉バス停(南行)	15:52			39	城陽ローンテニス倶楽部向	15:55		
8	わかたけ理容室前	15:53			38	尼塚バス停(東行)	15:56		
9	中島電気店向	15:54			37	友が丘バス停(東行)	15:57		
10	りゅう焼肉店向	15:55			36	宮ノ谷バス停(東行)	15:58		
11	理容コダマ向	15:56			35	高橋酒店向	15:59		
12	中川常緑園茶舗前	15:57			34	城南団地向	16:00		
13	堀士内科医院前	15:58			33	水度神社西側	16:02		
14	JAきょうとやましろ城陽南支店前	15:59			32	浅野耳鼻科医院向	16:03		
15	お米のハセガワ前	16:00			●	陽幸苑	16:15		
●	陽寿苑	16:07							

- 注意事項**
- 2台のバスで運行します。ご利用される苑によって、福祉センター前で乗り換えが必要な場合があります。
 - 交通事情によって、バスの運行時間が遅れることがあります。
 - 降雪・凍結など、天候によって運休することがあります。
 - 上記の停留所以外での乗降は、事故防止のためできません。
 - バスの乗車時の介助はできません。ご了承ください。

お知らせ
●バス利用増加で、乗車いただけない場合が予測されます。可能な限り徒歩・自転車での来苑にご協力ください。



資料2. 城陽市の上位計画・関連計画の概要

1) 上位計画における公共交通の位置づけ

《第3次城陽市総合計画（平成18年10月策定）》

第3次城陽市総合計画では、快適なまちづくりに向けて、「駅周辺整備を推進し公共交通対策を充実する」ことを掲げており、その基本方針や主な施策は次のとおりです。

《基本方針》

- 地域住民との協働による寺田駅周辺、長池駅周辺および山城青谷駅周辺の整備により、地域の顔となる特色ある市街地の形成をめざします
※各駅の周辺では、地域住民の皆様との協働によりまちづくりの検討が進められています。
- 市内各駅においても駅に通じる府道の整備を要請し、駅利用者の安全性や利便性を向上させ、駅周辺の良好な交通環境の形成をめざします
- JR奈良線および近鉄京都線の便数の増加や高速化などにより鉄道利用の利便性の向上をめざします
- 高齢者や障がいのある方が路線バスなどの公共交通を利用しやすくなることにより、健康で生きがいの持てる生活の実現と環境にやさしい交通の実現をめざします。

《主な施策》

○駅周辺整備の実施

- ・地域住民の皆様と共に検討した駅周辺整備計画の実現
- ・国道24号と長池駅南側を結ぶ道路整備
- ・府道上粕城陽線バイパスの整備にあわせた駅周辺整備

○鉄道利用者の利便性の向上

- ・JR奈良線第二期高速化・複線化
- ・近鉄京都線寺田駅への急行停車

○交通弱者の移動手段の確保

- ・路線バスの利便性向上



商業施設への乗り入れにより利便性が高まる“城陽さんさんバス”



国道24号と長池駅を結ぶ道路



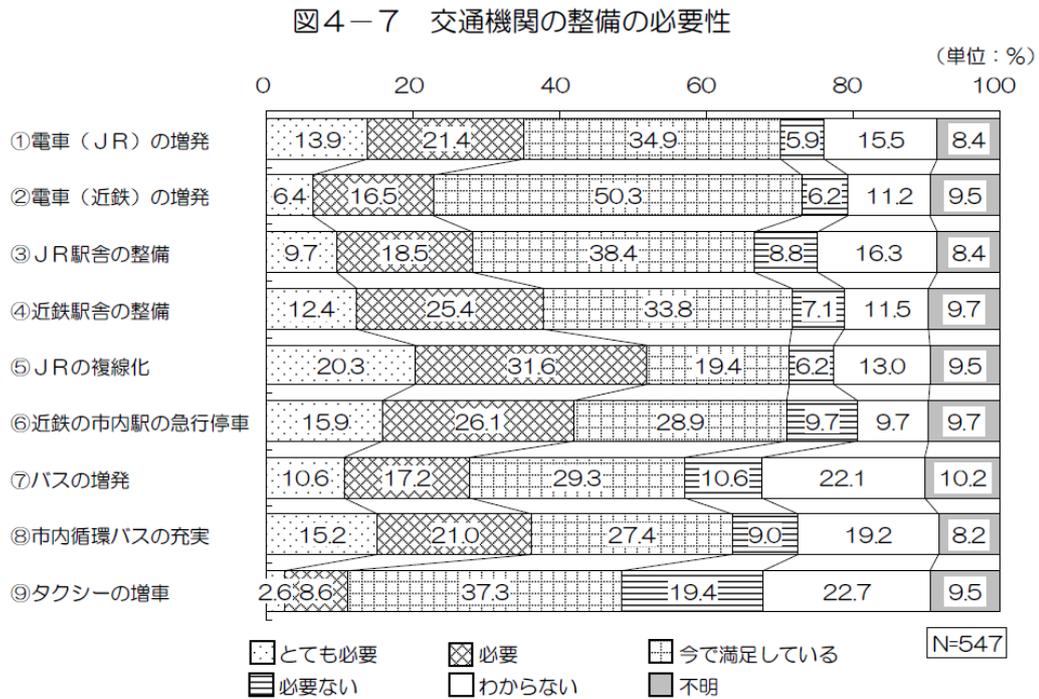
早期の複線化が望まれるJR奈良線

2) 市民アンケート等による公共交通に関する意見

(1) 城陽市市民意識調査 (平成23年10月実施) 有効回答数 547 件

◎ 交通機関の整備の必要性 (「とても必要」、「必要」と回答した人の割合)

- ・「JRの複線化」が最も多く、次いで「近鉄の市内駅の急行停車」「近鉄駅舎の整備」「市内循環バスの充実」の順となっています。



- ・この他、「城陽市の魅力」に関しては、「通勤・通学・買い物が便利」が 33.6% で最も高く、鉄道を中心とした公共交通の充実があることがうかがえます。
- ・また、日用品等の買い物の場は、全体の約半数が鉄道駅周辺となっています。

(2) 城陽市まちづくりアンケート (平成22年11月) 有効回答数 1,171 件

◎ 鉄道の利用しやすさ

- ・「満足」「やや満足」の合計は 70.6% で約 7 割が満足と感じています。

◎ 路線バスの利用しやすさ

- ・「満足」「やや満足」の合計は 28.3% で全体の満足度は低い状況です。

- ・この他、「城陽市に住み続けたい理由」に関しては、「近鉄、JRが通っており、通勤・通学・買い物が便利」が 47.5% で最も高く、全体の約半数が交通利便性の良さを理由にあげています。

資料3. 公共交通施策の推進に向けた他都市の事例

城陽市の公共交通施策の推進に向けて、他都市で行われている様々な施策を紹介します。

☆官民負担方式によるバスの運行

- ・ 交通事業者だけでは採算性が確保できない路線（廃止路線など）において、地域住民と交通事業者、自治体の3者が協定を締結し、地域ニーズに応じた効果的な運行を目指す制度。
- ・ バスの運行に係る赤字分を地域住民と自治体が負担するもので、路線バスを利用すればするほど住民負担が軽減されるシステム。
※宇治市、新潟市など

≪宇治市の取組み事例（宇治市のりあい交通事業）≫

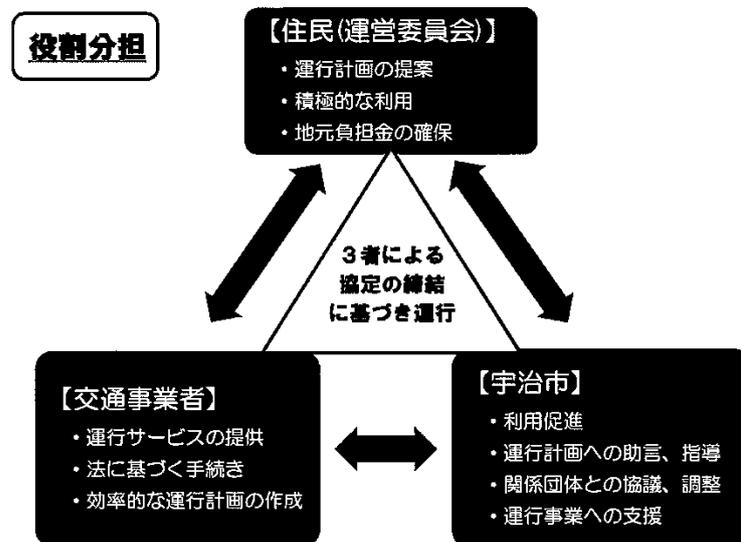
○事業概要

- ・ バス路線が休廃止となった地域の住民が主体となり、交通事業者、宇治市を含めた3者の役割分担により、小型バスやジャンボタクシー等の新たな公共交通を運行する事業。

○支援内容

- ・ 赤字が経費の半分を占める場合は、市と地域で赤字を半分ずつ負担。
- ・ 軌道に乗せるまでの1年間は試行期間として、今年度は市が赤字の9割を補助。
- ・ 公共交通の利用促進に必要な案内チラシ等の印刷費の一部を補助。

※この取組みでは、住民が主体となって、バスの必要性に関するアンケート調査等を実施し、これらを基に話し合いを進め、運行時刻や経路を検討。



図一 役割分担の考え方

☆デマンドバス・デマンドタクシーの運行

- ・路線バスとは異なり、利用者の要望（乗降場所や乗降時刻）に応じてバス・タクシーを運行。
- ・予約した複数の利用者を乗せる“乗合い”のため、目的地到着までに時間がかかることもある。
- ・料金は200円～300円程度が一般的。
※全国的に多数



出典：有田市ホームページ
(有田市デマンドバス)

☆民間事業者との連携（自動車学校等の送迎バスの活用）

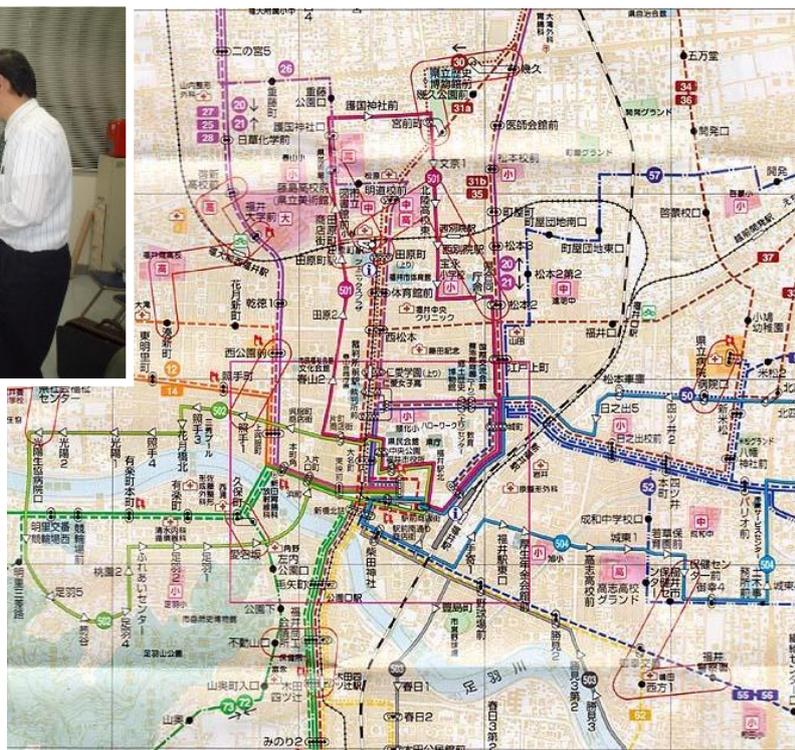
- ・自動車学校や病院、福祉センターなどが運行する送迎バスを一般の利用に開放。
- ・道路運送法による規定があることから、取組みに向けては、民間事業者の協力が不可欠。
※愛知県豊田市の事例では、年間約7,000人が利用



出典：平成20年度 高齢社会白書(内閣府)

☆バスマップの作成

- ・市内のバス路線をわかりやすく1枚にまとめたバスマップを地元の市民団体等が作成。全路線が把握できるわかりやすさで利用を促進。
※福井市、松江市、新潟市など



☆運行状況等の情報提供

- ・パソコンや携帯、スマートフォン等でバスの時刻や近接情報を伝えるサービスで利用を促進。
※京都市、金沢市、福井市など

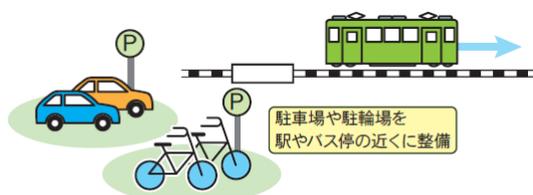


出典：京福バスホームページ



☆駅やバス停の環境整備

- ・地域住民がボランティアで自宅最寄りのバス停にベンチを設置する等の環境改善を実施。
- ・駅やバス停付近に自転車等の駐輪場を整備することで、離れた位置からの利用を促進。
※和歌山市、紀の川市、高松市など



出典：高松市ホームページ
(サイクル&バスライド駐輪場)

☆免許証自主返納支援制度

- ・有効期間内に運転免許証を自主返納した高齢者（65歳以上が一般的）には、コミュニティバスや市内バスの無料乗車券等を交付し、公共交通による移動を側面的に支援。
※福知山市、南丹市、精華町など



資料4 城陽未来まちづくり会議に向けた市民ニーズの把握

1) 調査の概要

《調査の目的》

「城陽未来まちづくり会議（55人委員会）」は、1つのテーマについて交流と対話を行い、その意見を市民の声として行政への提案のつなげ、また交流の場を通じて地域社会のつながり（コミュニティ）を高めるためを目的に開催しました。

このアンケート調査は、城陽未来まちづくり会議を実りあるものとしていくため、無作為に抽出した市民1,800人を対象に、会議への参加依頼（資料-16）とともにアンケート用紙（資料-17）を郵送し、調査を実施しました。

《調査の概要》

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| (1) 調査地域 | 城陽市全域 |
| (2) 調査対象 | 城陽市在住の満18歳以上の男女個人
(平成26年4月1日現在) |
| (3) 標本数 | 1,800票 |
| (4) 標本抽出 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収） |
| (6) 調査時期 | 平成26年8月 |
| (7) 回収標本数 | 483票（回収率28.8%） |

※グラフ中に出てくる「N=〇〇」は有効回答数を表しています。



(参加依頼)

第1回 城陽未来まちづくり会議 (55人委員会)

開催
します!

城陽市庁舎から、「城陽未来まちづくり会議」への参加のご案内です。
(この案内は、無作為に抽出された1,800人の城陽市民の方に送付しています。)
会議開催の趣旨をご説明しますので、是非ご参加くださいようお願いいたします。

しみん みな こえ あす じょうよう
市民の皆さまの「声」が、明日の城陽をつくります!

- 城陽未来まちづくり会議(55人委員会)とは?
城陽市民55人によって構成される当会議にご参加いただき、あらかじめ設定された1つのテーマについて、交流と対話・検討を行い、その声を市政に活かしていこうとする取り組みです。
(専門知識などは不要です。)
- 会議メンバーの対象者は?
18歳以上の城陽市民を対象としています。(性別不問)
- 開催日、開催場所は?
平成26年9月20日(土)に開催します。場所は 文化パルク城陽 4階大会議室 です。
- 会議の参加者の決定は?
参加のご承諾をいただいた方が多い場合は、抽選により55人を選出させていただきます。
なお、会議にご参加いただいた方には、謝礼として1人1日3,000円をお支払いいたします。
詳しくは募集要項

※参加承諾書に必要事項をご記入のうえ、「対象者アンケート」と同封し、8月20日(水)までご投函ください

皆さまのご参加を心よりお待ちしております

第1回 城陽未来まちづくり会議 参加承諾書

第1回城陽未来まちづくり会議への参加について
(右のいずれかを○で囲んでください)

	参加する	参加しない		
お名前	年齢	年代	性別	
ご住所	城陽市			
電話番号	() -			
その他連絡事項(配慮を要する事項等があればお書きください)				

城陽市 市長公室 市民活動支援課

城陽未来まちづくり会議(55人委員会)の詳細について

- 1 会議名
城陽未来まちづくり会議(55人委員会)
- 2 目的
市民主体のまちづくりを一層促進するため、市民の参画のもと、城陽未来まちづくり会議(55人委員会)を設置し、1つのテーマについて交流と対話・討議を行い、その意見を市民の声として行政への提案に繋げます。また、交流の場を通じて地域社会の繋がりが(コミュニティ)を高める一助とします。
- 3 会議概要
 - (1) 開催日 平成26年(2014年)9月20日(土)
 - (2) 開催時間 10:00~16:00 ※昼食はご準備いたします。
 - (3) 開催場所 文化パルク城陽 4階大会議室
 - (4) 会議内容
 - ① テーマ 高齢社会における公共交通のあり方
 - ② 方式 参加者がグループに分かれて、グループ毎に市民全体に関わるような施策をワークショップ方式等により討議していただきます。なお、討議の前に必要な情報を提供いたします。(専門知識などは不要です。)討議にあたっては、ファシリテーターの進行により各グループでテーマに沿って話し合いを行い、意見をまとめていきます。
 - (5) 謝 礼 1日1人あたり3,000円
 - (6) その他
 - ① 参加承諾人数が定員数を上回った場合は、抽選により参加者を決定します。
 - ② 参加決定者には「参加決定通知書」とともに、当日討議を行う内容や流れなどを記載した「事前資料」を郵送する予定です。
 - ③ 市では、城陽未来まちづくり会議の様子について、市民の皆様にご伝えしていきます。そのために必要な写真撮影や画像等の広報での活用について、ご了承のほどお願いいたします。

【お問い合わせ先】
城陽市 市長公室 市民活動支援課 担当: 下岡、森
電話 (0774)56-4001 FAX (0774)56-3999 Mail : shiminkatsudo@city.joyo.lg.jp

参加承諾書の記入方法、郵送方法について

※会議への参加について、「参加する」「参加しない」のいずれかを○で囲んでください。

※年齢欄は10歳を区切り、「〇〇歳代」と記入してください。 <例>:21歳~20歳代、69歳~60歳代

※その他連絡事項欄は、会議に参加されるにあたり、特に配慮を要する事項がある場合にご記入ください。

※必要事項にご記入の上、切り取り線で切り取って、別紙「対象者アンケート」とともに同封の返信用封筒に入れて封をし、8月20日(水)までに郵便ポストに投函してください。(切手不要、当日消印有効)

※ご記入いただいた内容については、城陽未来まちづくり会議の目的以外には使用いたしません。

(アンケート用紙)

第1回 城陽未来まちづくり会議 対象者アンケート

このアンケートは、城陽未来まちづくり会議の開催にあたり、会議の参加者を選出するため無作為に抽出いたしました1,800人の市民の皆さまを対象として、参加のご案内とともにお願いしているものです。
城陽市の新たな取り組みである「城陽未来まちづくり会議（5.5人委員会）」を、市民の皆さまとともに実りあるものとしていくため、当該アンケートの実施について、趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成26年（2014年）8月

城陽市

ご記入にあたってのお願い

- このアンケートの回答は、原則として封筒の宛名ご本人にお願いします。
- ご記入は、鉛筆または黒のボールペンをお願いします。
- ご回答は、質問1から順番にお答えください。
- ご回答は、設問ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
なお、「その他」にあてはまる場合は、その内容を（ ）内に具体的に
ご記入ください。
- ご記入が完了したら、返送用封筒に「参加承諾書」ともに入れて、
郵送にて8月20日（水）までにご返送ください。（切手は不要です。）
- ご記入にあたり、ご質問などがありましたら、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

城陽市市長公室市民活動支援課 担当：下岡、森
電話（0774）56-4001 FAX（0774）56-3999

1

質問1 全員にお伺いします。あなた自身のことについてお答えください。

(1) 性別を選んでください。

①男性 ②女性

(2) 年齢層を選んでください。

①10～20歳代 ②30歳代 ③40歳代 ④50歳代
⑤60歳代 ⑥70歳代 ⑦80歳代以上

質問2 全員にお伺いします。城陽未来まちづくり会議（5.5人委員会）の参加案内を最初にご覧になったとき、どのようにお感じになりましたか。最も当てはまるもの1つを選んでください。

①面白そうだった ②興味がなかった ③内容が分かりづらかった
④その他（ ）

質問3 全員にお伺いします。今回のように無作為抽出の市民の皆さまに案内状をお送りし、参加者を募る方法について、どのようにお考えですか。最も当てはまるもの1つを選んでください。

①多くの市民が参加の機会を得られて、よいことだと思う
②関心のない市民にも案内が届くので効率的でないと思う
③その他（ ）

質問4 全員にお伺いします。あなたは城陽未来まちづくり会議への参加を承諾されましたか。

①承諾した ②承諾しなかった

質問5 質問4で「②承諾しなかった」とご回答された方にお伺いします。参加を承諾されなかった理由は何ですか。最も当てはまるもの一つを選んでください。

①参加しなかったが今回は都合が合わない ②拘束時間が長すぎる
③会議そのものに関心がなかった ④土曜日は参加できない
⑤謝礼が少ない ⑥心身の不調のため
⑦その他（ ）

【裏面へ】

2

質問6 全員にお伺いします。今後、城陽未来まちづくり会議で扱って欲しいテーマはありますか。（複数回答可）

①教育 ②子育て ③環境 ④農業 ⑤商工観光業 ⑥道路・交通
⑦都市計画 ⑧市民活動 ⑨高齢者・障がい者福祉 ⑩防犯・防災
⑪医療 ⑫自然・歴史・文化財
⑬その他（ ）

質問7 その他、ご自由にお書き下さい。

アンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。

3

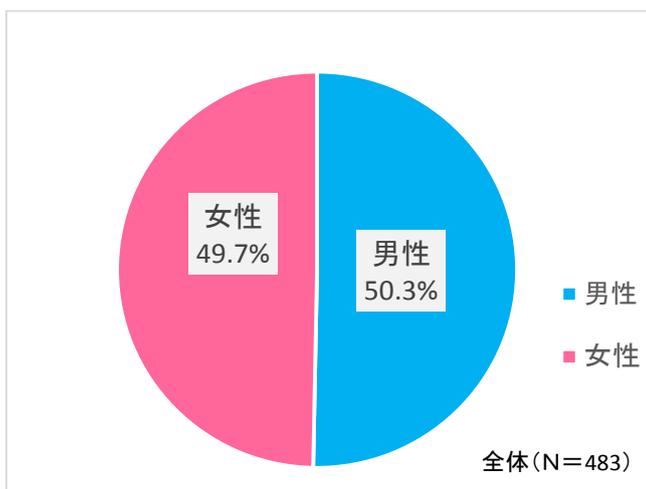
2) 調査の結果

【質問1】あなたご自身のことについてお答えください。

(1) 性別

- 回答者の性別をみると、男性が50.3%、女性が49.7%でほぼ同数となっています。

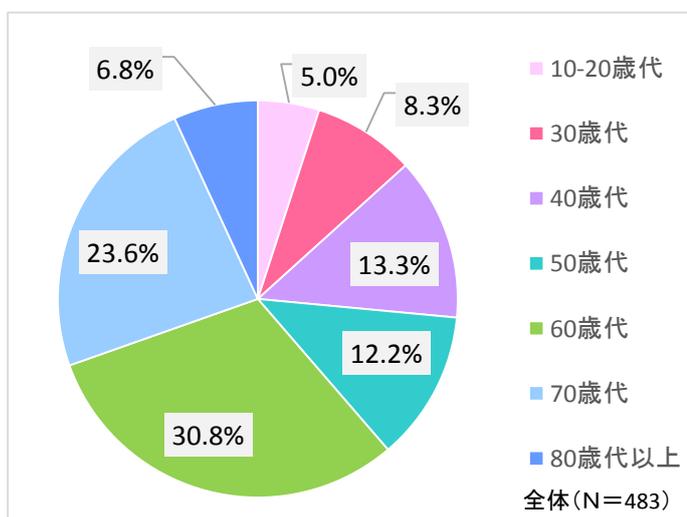
	標数	割合
男性	243	50.3%
女性	240	49.7%
合計	483	100.0%



(2) 年齢層

- 回答者の年齢層をみると60歳代が最も多く30.8%、次いで70歳代が23.6%の順になっています。
- 子育て世代の10-20歳代から40歳代の割合は、全体の約2.6割(合計128人)となっています。

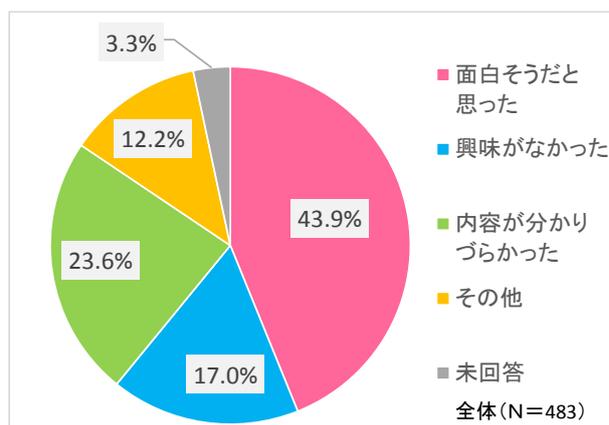
	票数	割合
10-20歳代	24	5.0%
30歳代	40	8.3%
40歳代	64	13.3%
50歳代	59	12.2%
60歳代	149	30.8%
70歳代	114	23.6%
80歳代以上	33	6.8%
合計	483	100.0%



【質問2】城陽未来まちづくり会議（55人委員会）の参加案内を最初にご覧になったとき、どのようにお感じになりましたか。

- ・「面白そうだったと思った」が最も多く43.9%を占めています。
- ・次いで「内容が分かりづらかった」が23.6%となっています。
- ・「興味がなかった」は17%となっています。

	票数	割合
面白そうだったと思った	212	43.9%
興味がなかった	82	17.0%
内容が分かりづらかった	114	23.6%
その他	59	12.2%
未回答	16	3.3%
合計	483	100.0%



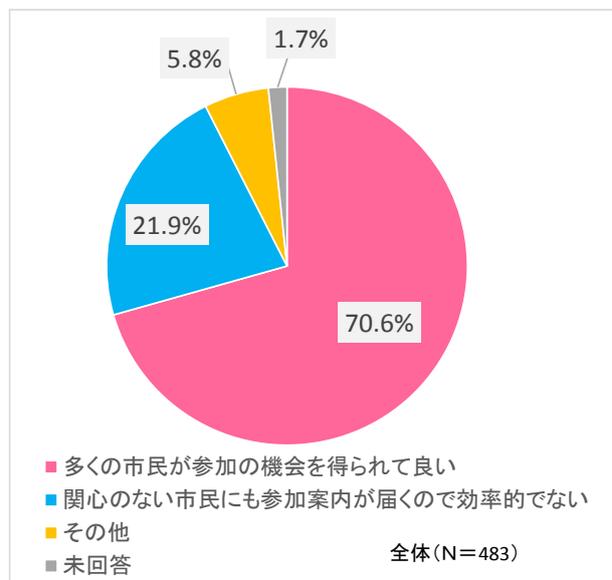
《その他の主な意見》

- ・もっと早くこのような取り組みをすべきだと思った。
- ・会議に参加できないが、良いことだと思う。
- ・とてもいい案だと思うので続けてほしい。
- ・参加者意見を聞きたいが自分の発言ができるか心配。
- ・自分には責任が重い。
- ・未来まちづくり会議は何を考えていいか分かりにくい。
- ・意見がまとまるのか疑問、仮にまとまっても実現性に疑問がある。
- ・本当に市政に反映されるのか疑問。
- ・このような会議は必要だが参加する気にはなれない。
- ・忙しくて参加できないと思った。
- ・テーマに興味が持てない。

【質問3】今回のように無作為抽出の市民の皆さまに案内状をお送りし、参加者を募る方法について、どのようにお考えですか。

- 70.6%の人が「多くの市民が参加の機会を得られて良い」と回答しています。
- 21.9%の人が「関心のない市民にも参加案内が届くので効率的でない」と回答しています。

	票 数	割 合
多くの市民が参加の機会を得られて良い	341	70.6%
関心のない市民にも参加案内が届くので効率的でない	106	21.9%
その他	28	5.8%
未回答	8	1.7%
合計	483	100.0%



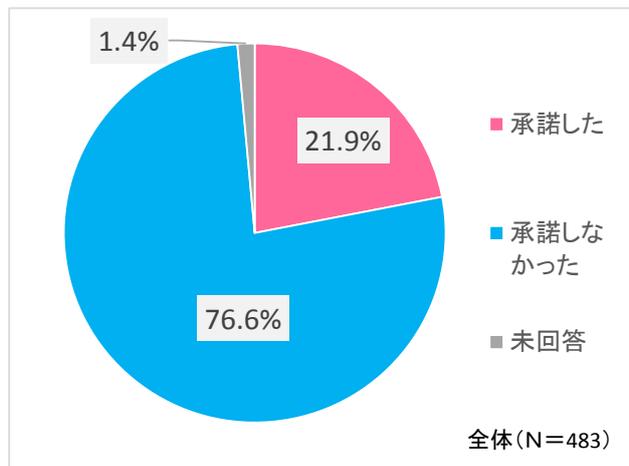
《その他の主な意見》

- どちらとも言えず1の回答も2の回答も考えられる。
- 1,800人に送って55人が参加する方法は、税金の無駄遣いにならないか心配。
- 広く市民に募って関心のある人が参加する方が効率良い。
- 興味があっても都合があわない人も多いのではないかと思った。
- 興味のある人全員が対象の方がよい。
- 無作為に選ばれたという方法について不信感がある。
- 各年代から均等に抽出しているのか疑問がある。
- 年代構成比でいうと60代以上の意見に集約されてしまうのではないか。
- テーマにより関心の度合いも年齢的にも違いがあるので、年齢層を絞ってはどうか。
- もっと丁寧な説明が必要だと思った。

【質問4】 城陽未来まちづくり会議への参加を承諾されましたか。

- ・21.9%の人が「承諾した」と回答しています。
- ・76.6%の人が「承諾しなかった」と回答しています。

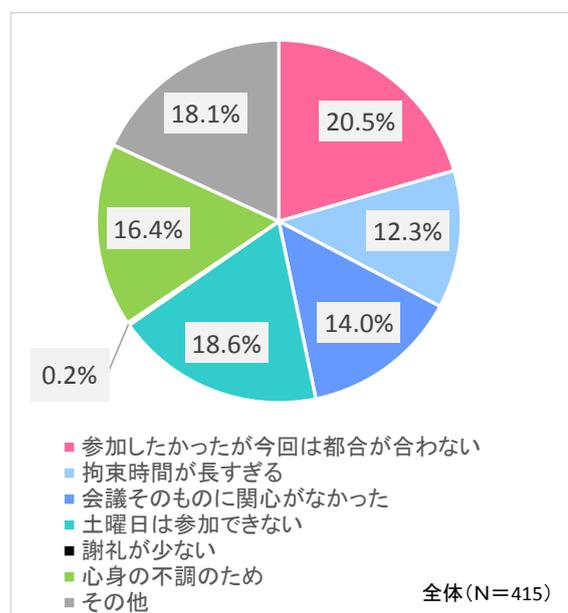
	票 数	割 合
承諾した	106	21.9%
承諾しなかった	370	76.6%
未回答	7	1.5%
合計	483	100.0%



【質問5】 参加承諾をされなかった理由は何ですか。(複数回答)

- ・最も多かった理由は「参加したかったが今回は都合が合わない」となっています。
- ・次いで「土曜日は参加できない」が18.6%となっています。

	票 数	割 合
参加したかったが今回は都合が合わない	85	20.5%
拘束時間が長すぎる	51	12.3%
会議そのものに関心がなかった	58	14.0%
土曜日は参加できない	77	18.6%
謝礼が少ない	1	0.2%
心身の不調のため	68	16.4%
その他	75	18.1%
合計	415	100.0%



《その他の主な意見》

- ・仕事や他の予定があるため。
- ・家族の介護や子育てのため。
- ・テーマに問題があると感じるため。
- ・討議した内容が市政に活かされることが期待できないため。

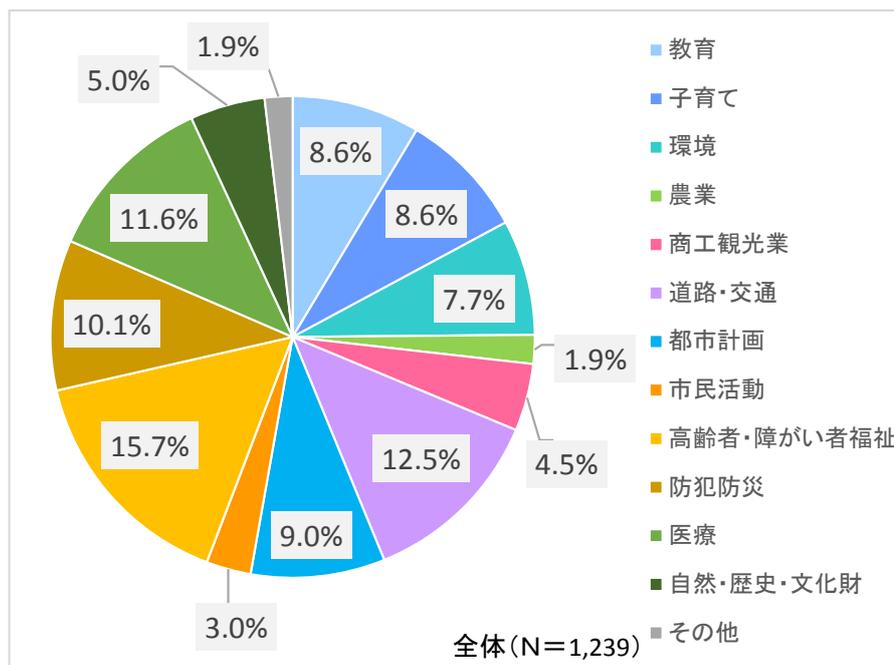
【質問6】 今後、城陽未来まちづくり会議で扱って欲しいテーマはありますか。（複数回答）

- ・「高齢者・障がい者福祉」が 15.7%と最も多くなっています。
- ・次いで「道路・交通」が 12.5%となっています。
- ・「医療」「防犯防災」「都市計画」「教育」「子育て」は 10%前後となっています。

	票 数	割 合
教育	106	8.6%
子育て	106	8.6%
環境	96	7.7%
農業	24	1.9%
商工観光業	56	4.5%
道路・交通	155	12.5%
都市計画	111	9.0%
市民活動	37	3.0%
高齢者・障がい者福祉	194	15.7%
防犯防災	125	10.1%
医療	144	11.6%
自然・歴史・文化財	62	5.0%
その他	23	1.9%
合計	1,239	100.0%

《その他の主な意見》

- ・人口を増加させるための施策。
- ・若者を呼び込むまちづくり。
- ・若者に対しての就業支援。
- ・まちの活性化。
- ・若い人が集まるイベントやアウトレットモールの誘致。



【質問7】 自由意見

■自由意見 【城陽未来まちづくり会議の運営について】

<p>・案内状が無作為となっていますが、広報誌等の多くの目に触れたらいいと思います。</p>
<p>・今回の案内をポスター等にして、市役所内等で視覚的に訴えたらいいと思います。</p>
<p>・無作為抽出は興味深い方法ですが、働き世代や障がい者等、発言機会の少ない人達を含めて参加の意思を問う方法あれば良かったと思います。</p>
<p>・会議の継続や発展のためには、幅広い世代間の意見交換が必要不可欠だと思います。公平な人選のためには抽選が良いのですが、何か配慮があっても良かったと思います。</p>
<p>・テーマ毎に参加できるよう選択できたらいいと思います。</p>
<p>・拘束時間を半分くらいにして回数を重ねる方がいいと思う。このような市民参加型の会議を行うのは今後更に必要だと思います。</p>
<p>・55人委員会の年齢構成は、若い世代や中年世代を多くしたほうがいいように思います。</p>
<p>・今後の人口減少に向けたコンパクトシティを目指して、様々な施策の検討を望みます。</p>
<p>・どんなまちにしたいのか、市民に分かりやすいキーワードが必要です。</p>
<p>・魅力ある町づくりはあまりにも漠然としていてテーマが大きいので、会議の中で方向づけできればいいと思います。</p>
<p>・今後の城陽が発展・成長するためには、若者が城陽に住むための未来を語る場がほしいと思います。</p>
<p>・住みやすい街、魅力ある街にすることで人口も増えて街の活性化にもつながると思う。そのために何が必要でどんな希望があるかをまとめてまちづくりに役立ててほしいと思います。</p>
<p>・55人委員会での結論を広報誌等でも公表してほしい。またそれに基づいた対策や検討内容、進捗状況等を公表してほしいと思います。</p>
<p>・1日限りのお祭りのイベントでなく、1日2時間程度の継続的な会議でないと意見を掘り下げられないと思います。</p>
<p>・「未来まちづくり会議」と希望を感じる会議名なのに、テーマがすでに決められていることに疑問です。テーマを決めるところから市民主体に進めた方がより身近に考えられるのではないのでしょうか。</p>
<p>・会議内容の説明文でカタカナの意味が分からないので、高齢者等でも分かるように書いてほしいと思います。</p>

■自由意見【公共交通に関して】

・自治会からさんさんバスの廃止路線復活を望む声があります。
・さんさんバスの路線はJR城陽駅を中心とした路線編成となっており、必ずしも利便性が高いとは言えない。市役所を中心とした路線編成は利便性が高いと思います。
・市民の高齢化によりさんさんバスの運行を再検討する必要があります。
・JR城陽⇄城陽団地のバスが2年前に廃止され不便を感じます。城陽団地は高齢者が多く公的な交通手段がないと困るので、他の路線バスと同じように運行してほしいと思います。
・住宅の坂道が多い地域に低料金の小型バスを走らせてほしいと思います。
・深谷校区は坂が多く自動車がないと苦勞します。スーパーなどは旧国道沿いにあり高台地区に住む高齢者に負担のかからない何か良い対策が必要です。
・病院や銀行に行くときに交通の不便を感じます。
・車がなく歩行が困難な人は市役所等に行く方法がないと思います。
・自家用車を利用できない高齢者等の交通弱者が、日常生活に必要な移動手段を確保していくことが重要だと思います。
・近鉄寺田駅の高架化により市民が暮らしやすいまちづくりを希望します。
・近鉄寺田駅周辺の開発が早期に進むことを希望します。
・環境にやさしい街にするため自家用車に過度に依存しなくても移動できるよう、公共交通の利便性向上や利用促進に取り組むことが重要だと思います。

■自由意見【道路環境について】

・久津川駅前の道路は狭く渋滞し歩道も特に狭い。道路を歩くのも自動車を運転するのも危険なため一方通行化、2車線化、歩道の拡幅、代替道路の整備等が必要だと思います。
・歩行者の安全確保のために通学路、道路、交通の改善が必要だと思います。
・道路の拡幅のための側溝整備は、車の通り抜けやスピードを出して走行する等が考えられるため、不便解消よりも乗り入れさせない事が必要だと思います。
・住宅街に路上駐車がが多く、スピードを出して通り抜けて行くので、何らかの規制をしてほしいと思います。
・路上駐車は見通しが悪くなり片側通行になるため、取締まり等の対策が必要だと思います。
・文化パーク城陽の西側を通る南北道路が国道24号で途切れているので、寺田・富野間をつなげてほしいと思います。
・水主線の延長で長池駅への渋滞緩和を行ってほしいと思います。

■自由意見 【若い人が住みやすい環境に関して】

<p>・人口も増えておらず近鉄寺田駅前の寂れ方はまるでゴーストタウンのようです。もっとお洒落で便利な城陽にならないと、ますます若い人達が住んでくれないのではと危惧しています。</p>
<p>・近年の城陽市は老人タウンとなっているので、若い世帯が住みやすい環境が必要だと思います。</p>
<p>・城陽市に住んでみたいという魅力が欠けていると思います。子育てや教育等のフレームを作ればより多くの若者が流入してくると思います。</p>
<p>・京都・大阪・奈良・大津に便利な地の利を活かして、大学や専門学校設置等、青少年が集まる都市づくりが必要だと思います。</p>
<p>・城陽市は若い人が流出しているので若い人に手厚い行政が必要だと思います。</p>
<p>・文化パークや運動公園等、たくさんの公共施設があるのでイベント等をもっと開催してほしいと思います。</p>
<p>・準工業地帯も増えるので商工業が栄える町になってほしい。若い人たちが住みよい町、住みたくなるような魅力あるまちにしてほしいと思います。</p>
<p>・若者同士で付き合える場や見合い等の部署を作って、若者と人口が増加する対策を積極的に取り組んでほしいと思います。</p>

■自由意見 【学童保育】

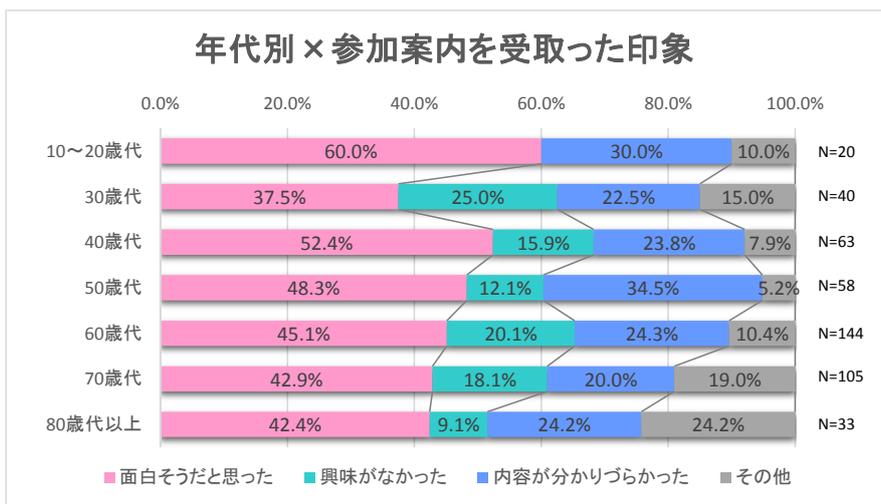
<p>・公立の幼稚園を2年保育でなく3年保育にしたら園児が集まり廃園にならなくてすむと思います。他市のような小中一貫校があれば学力も上がり、子育て世代にとってより魅力的な市になると思います。</p>
<p>・きづ川病院の病後保育は病児保育もできるようにしてほしい。預かり時間も夜7～8時ぐらいまでにして受入れ人数も増やすと便利だと思います。</p>
<p>・城陽市の人口減を抑制するには教育・医療の充実を進め子育て世代が住みやすい環境整備が必要だと思います。</p>
<p>・学童保育のおやつ提供も市で行ってほしいと思います。</p>
<p>・支援学級はまだまだ理解されないため、小・中学校の支援学級の学習強化をしてほしいと思います。</p>

《クロス集計》

① 年代別×参加案内を受取った印象

城陽未来まちづくり会議の参加依頼を受け取った印象を年代別に集計しました。

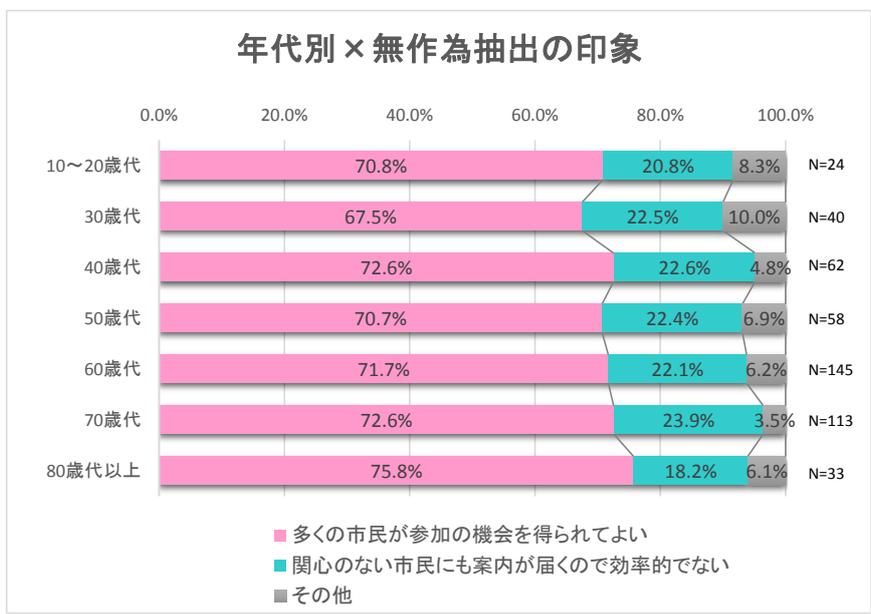
- どの年代も参加案内を受け取って「面白そうだった」と感じたようです。
- 一方で、「内容が分かりづらかった」がやや多いようです。
- 30歳代では「興味がなかった」がやや多いようです。



② 年代別×無作為抽出印象

参加依頼を無作為で抽出した印象を、年代別に集計しました。

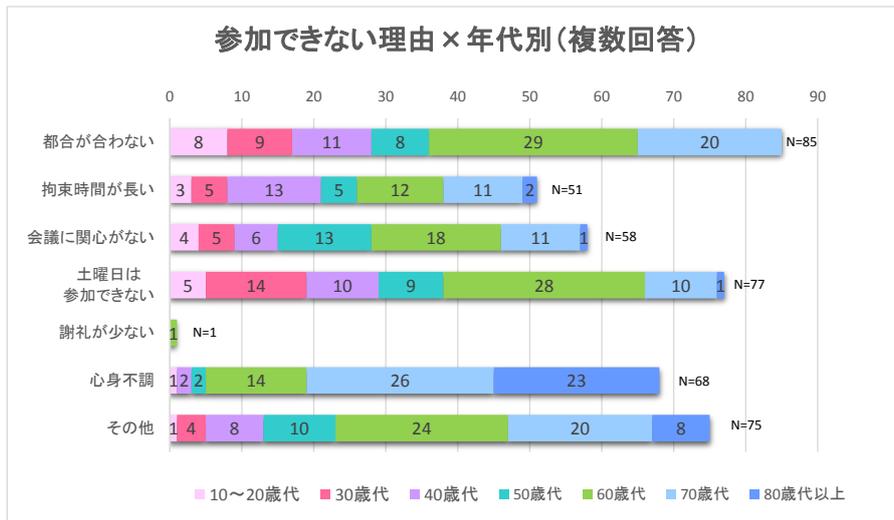
- どの年代も「多くの市民が参加の機会を得られてよい」と感じたようです。
- 一方で、「関心のない市民にも案内が届くので効率的でない」は20%前後となっています。



③ 年代別×参加できない理由

参加できない理由を年代別に集計しました。

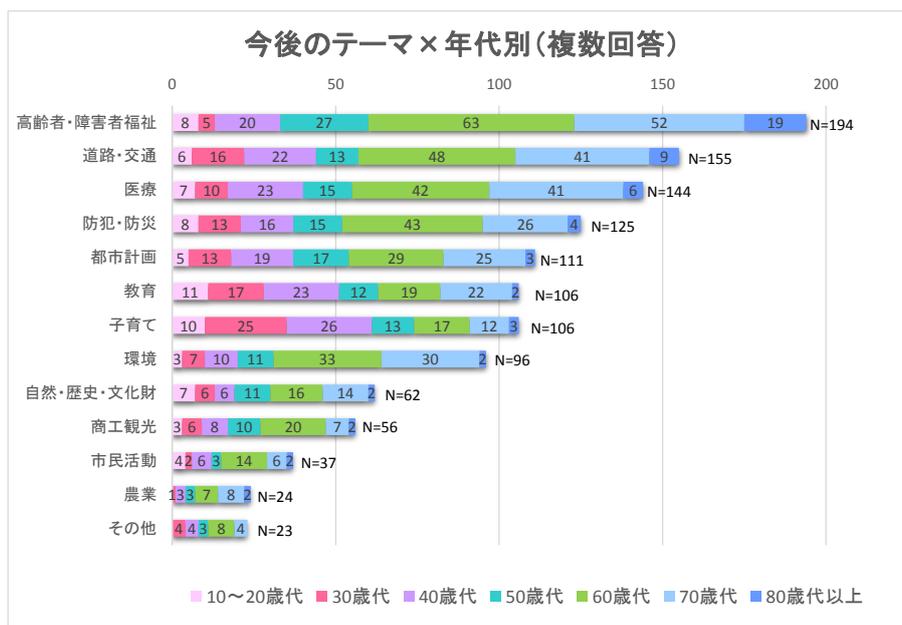
- 参加できない理由は、「都合が合わない」「土曜日は参加できない」が多く、土曜日は仕事であるという理由が多くありました。
- 年齢層が高くなるにつれて「心身不調」の理由が多くありました。



④ 年代別×城陽未来まちづくり会議で扱ってほしいテーマ

今後、城陽未来まちづくり会議で検討したいテーマを年代別に集計しました。

- 今後、扱ってほしいテーマとしては、高齢者・障がい者福祉が多くなっているものの、全体的に日々の生活に密着したテーマについて票が集まりました。



資料5 報告書に出てくる用語の説明

この報告書のなかで使用しているカタカナ用語の説明です。

用語	用語の意味
コミュニティバス	路線バスやほかの交通手段でまかなうことができない地域の公共交通需要に応じて運行されるバスのこと。 一般的には自治体が民間のバス会社に委託して、大型の路線バスが入れない住宅街や、通常路線バスの経路から外れた公共施設等を結んで運行されている。
デマンドバス デマンドタクシー	利用者の要望（予約）があった時に運行する乗合のバスやタクシーのこと。ワンボックスタイプのジャンボタクシータイプや、小型タクシータイプの車両で運行される場合が多い。
ジャンボタクシー	ワンボックスタイプの9人乗り程度のタクシーのこと。
レンタサイクル	駅やバス停、公共施設等に設置した自転車を有料で貸し出すこと。
バリアフリー	床や地面との段差をなくしたり、点字ブロックや音響による誘導を行い、移動しやすい・生活しやすい環境にすること。
カーシェアリング	登録した会員の間で特定の自動車を共同使用するサービスのこと。レンタカーと似てるが、レンタカーよりもごく短時間の利用を想定し、レンタカーよりも便利で安価になる場合が多い。
フィールドワーク	野外や現地で実際に状況を確認しながら調査したり、そこで生活している人・利用している人に聞き取りを行うこと。
ファシリテーター	班の中での議論や意見について、中立な立場や客観的な立場で議事進行を進め、意見をまとめたり、合意形成を図る役割を受け持つ人のこと。
ワークショップ	多様な人たちが主体的に会議等に参加し、自分の思いやアイデアを語り合い、参加者全員で話し合われた意見や提案等の情報を共有しながら、新しい発見をしたり新たなものを創造していく手法のこと。

城陽未来まちづくり会議（55人委員会）
報告書

平成26年12月

編集・発行 城陽市 市長公室 市民活動支援課
〒610-0195 京都府城陽市寺田東ノ口16・17番地
TEL 0774-52-1111（代表）
FAX 0774-56-3999